

モ太政官ノ裁令ヲ經タル者ヲ執テ法廷ニ訴ヘタル者ハ本官未ダ曾テ之アルヲ聞カス蓋シ法ノ許サ、ル所ナルヘシ然ラハ則チ此一句ヲ掲クレハ太政官ノ權ヲ薄ウスルニ非スシテ何ソヤ然レトモ從來既ニ太政官ノ裁令ヲ經タル者ヲ法庭ニ訴フルノ慣習アラシニハ宜シク此ニ之ヲ制止スヘシ若シ之ナクンハ決シテ之ヲ掲クルヲ須ヒサルナリ到底本規則中此一句ヲ存スルハ太政官ノ威嚴ヲ殺クニ似テ甚タ不可ナリ是レ本官ノ刪除説アル所以ニシテ決シテ前後其主義ヲ異ニシタルニ非サルナリ

○十四番 渡邊清

本官ノ感情ヲ興セシハ本案發令後人民ノ意想如何ニ在リテ二十番ノ論スル如ク又以下ノ文字アラハ爲メニ太政官ノ威嚴ヲ損シ人ヲシテ裁判所ト太政官ト相去ル遠カラスト爲スノ弊ヲ

生セシムルヲ恐レテナリ而シテ之ナキモ無上權アル太政官ノ裁令ヲ經タル者ヲ執テ裁判所ニ訴フルカ如キコトナキハ明瞭ナルニ由リ問題ニ可決アラシコトヲ切望ス

○三十五番 渡邊洪基

本官行政裁判ト請願ト相似タルコトヲ説キタルヨリ更ニ一場ノ議論ヲ増シタルカ如クナレトモ熟思セハ彼此ノ差異ナキ所以ハ自ラ分明ナルヘシ蓋シ行政裁判ハ官吏行政職務内ノ事件ニ關シ訴フル者ニシテ其之ニ對シテ上言スルニ至テハ請願ト雖モ均シク一ナリ且ツ那ノ指令ニ不服ト云ヘルモ法律ニ背キタル乎公道ニ背キタル乎習慣ニ背キタル乎ノ三點ニ外ナラス廻チ人民相互ノ間ニ在テハ正ニ法廷ニ訴フヘキ者ナルモ民間ノ情態ヲ顧ミルニ甲乙意見ヲ異ニスルモ漫ニ之カ判決ヲ判官ニ請フ者ニ非ス多ク

ハ勸解等ニテ事ヲ了スヘシ之ト同シク今此規則ノ制定ニ至リシ以上ハ之ニ依リテ請願シ官吏ヲ被告トシテ訴フルカ如キコトハ從テ減少スヘシ然ルニ此一句ヲ削ル時ハ太政官ノ裁令ニ關シテハ訴ヘサルモ處分ニ關シテハ訴ヲ起スヲ得テ爲メニ二重ノ手數ヲ要シ條理從テ紊亂スヘケレハ此一句ハ須ラク存セサルヘカラサルナリ

○番二番井上毅

現問題ノ出ルヤ當初内閣委員辨明ノ不充分ナルニ起因シタリト考フルヲ以テ今之ヲ辨スヘシ但其辨明ノ次テ爰ニ一言

スヘキアリ二十番ハ本條ヲ解シテ太政官ヲ被告トシテ訴フルヲ禁シタル者ト爲スカ如シ然レトモ本案ノ意ハ太政官ノ裁令ヲ經タル事件即チ之ヲ譬ヘハ東京府關係ノ事ナランニハ東京府ヲ被告トシテ起訴スルヲ許サルニ在リテ太政官ヲ被告トスルヤ否ヤ之ヲ示

スニ非ルナリ恐ラクハ論者ノ誤解ニ非ルヲ得ンヤ是ヨリ又以下ナル文字ノ必用ナル所以ヲ説明スヘシ抑請願ト裁判トノ關係ヲ陳レハ番外一番等ノ既ニ説明セシカ如ク極メテ混雜ナルモ之ヲ約言セハ判然請願ト訴訟トノ二箇ニ分別スヘク且訴訟ハ以テ權利曲直ヲ爭ヒ請願ハ以テ自己ノ利害ニ關スルノ願ヒナレハ其別甚タ分明ナリ是レ蓋シ二十番ノ彼此混スヘキ者ニアラスト云フ所以ナルヘケレト是レ乃チ彼ヲ解シテ未タ此ヲ解サル者ト云フヘシ何トナレハ請願ニ屬スヘキ者ヲ執テ法庭ニ訴フルハ固ヨリ得テ爲スヘカラサレトモ訴訟ニ屬スヘキ者ヲ執テ請願スルハ人民ノ隨意ニシテ猶ホ私和ノコトシ故ニ請願中ニハ訴訟ニ屬スヘキ性質ノ者ヲ混スルヤ必セリ既ニ此性質ノ者ナランニハ又以下ノ明文ナクンハ太政官

ノ裁令ヲ經タル者ト雖モ亦執テ裁判所ニ訴フルヲ得ルヤ疑ヒナシ  
 是レ則チ人民ノ權利ハ不文間ニ消滅スヘキ者ニ非サレハナリ但其  
 權利ハ人民固有ノ者ナルモ此場合ニ於テハ之ヲ抑制スルニ非サレ  
 ハ政體上支障アリ而シテ此ノ如クスルモ太政官ノ裁令ヲ經テ猶ホ  
 止ムヲ欲セサル者ハ始メヨリ裁判所ニ訴フヘケレハ人民ニ在テモ  
 亦異議アルヘカラス是レ此一句ノ必用ナル所以ナリ

○二十番<sup>三浦安</sup> 番外二番ヨリ本官ハ本條ノ「太政官ノ裁令ヲ經タル者  
 云々」ヲ解シテ太政官ヲ被告トシテ訴フルヲ許サ、ルノ意ト謬リタ  
 ルニ非スヤ云々トノ辨明アリ本官ハ太政官ノミトハ解セサルモ太  
 政官モ亦被告トシテ訴フルヲ許サ、ル者ト解シタリ今本案ヲ執テ  
 之ヲ看ルモ太政官ハ此ニ含蓄セサル者トハ徹頭徹尾解スルヲ得サ

ルナリ本案ノ意若シ其レ此ニ在ランニハ又以下ノ文字ハ彌無用ナ  
 レハ之ヲ刪ルニ如カサルナリ又說ノ如ク穩便主義ト得失上ノ推測  
 トヨリシテ裁判ニ屬スヘキ者モ請願ト爲シテ之ヲ呈スル者ナキニ  
 非サルヘキモ原來裁判ハ勝負ヲ争フ者ナリ請願ハ恩惠ヲ請フ者ナ  
 レハ其文意文體共ニ各殊異アルヤ明カナリ今爰ニ其一例ヲ舉ンニ  
 其言烈シクシテ權利曲直ヲ争フ者ノ如キ是レ裁判ヲ要ムルノ文ナ  
 リ又自己ノ情實等ヲ訟ヘテ懇ニ布令ノ廢止等ヲ請フ如キ是レ請願  
 ノ文ナリ故ニ是等ハ當局者ニ在テ一讀直チニ分明ナルヘケレハ縱  
 ヒ其名稱ハ請願ト云ヒ建白ト云ヒ訴訟ト云フモ皆其文意ニ依テ之  
 ヲ區分シ其受理ト否トヲ定メサルヘカラス若其レ裁判ニ屬スヘキ  
 者モ其名ノ請願トアルヲ以テ當局者ハ請願トシテ之ヲ受理セハ夫

ノ三大權モ到底壞亂スヘシ即チ無上ノ權ヲ有スル太政官ト雖モ訴訟ニ屬スヘキ者ヲモ裁令スルコトナキハ萬々明カナリ其レ然ラハ其裁令ヲ經タル者ニ對シテ更ニ訴フヘカラサルハ固ヨリ論ヲ俟タサルナリ因テ之ヲ刪ルヲ可トス

○番二番井上

二十番ノ說ヲ聽クニ目下本員ノ辨明シタル枝葉ノ一

事猶ホ未タ解ケサルカ爲メ畢竟本修正說モ提出ナリタリト考フルヲ以テ復タ之ヲ説明セシ二十番ハ本條ヲ解シテ太政官ヲモ被告トシテ訴フルヲ禁シタル者ト辨スレトモ本條ハ讓テ字ノ如ク太政官ノ裁令ヲ經タル者ハ云々トアリテ太政官ノ裁令ハ云々トアルニ非サレハ同官ヲ被告トスルヤ否ヤニ非スシテ其裁令ヲ經タル事件ニ關シテ訴フルヲ禁シタルニ在ルハ明瞭ナリ猶ホ之ヲ第二條ト比照

セハ論者コ於テモ亦曉ル所アルヘシ即チ同條ニハ「太政官ニ請願云々」トノミニテ他ノ如ク太政官職務内ノ事件ハ云々ト是ナキニ非スヤ第十條ニ「太政官ニ於テ請願ヲ裁可スルトキハ主務省ニ付シテ處分セシムヘシ」トアルモ亦徵スヘキナリ且實際ニ於テモ從來同官ヲ被告トシテ起訴シタル者アルヲ聞カヌ又有ルヘキノ理由ナケレハナリ蓋シ二十番疑義ノ由來スル所或ハ裁令ノ意ニ適セサルヲ以テ起訴スル者アラント云フニ在ル乎然ルニ其裁令ハ請願ノ何タルニ拘ハラズ概シテ書面願之趣難聞届候事ト云フカ如キ單簡ナル者ニ過キサレハ之ヲ以テ同官ヲ被告トシテ起訴スルモ豈之ヲ受理スルノ判官アルハケンヤ廻チ府知事縣令若クハ郡區長等ヲ被告トシテ訴フルニ至ルヤ必セリ是レ又以下ナル文字ノナカルヘカラサル理

由ナリ畢竟二十番ノ如ク了解シタランニハ其動議アルモ亦宜ヘナ  
リト雖モ此誤解ノ消散シタル以上ハ蓋シ其說ノ否ナルヲ知ルヘキ  
ナリ

○二十番<sup>三浦安</sup>

太政官ハ無上ノ權力ヲ有スル處ナルヲ以テ之ヲ被告  
トスヘカラサルハ本官モ亦之ヲ知レリ畢竟此一句ハ杞憂ニシテ之  
カ爲メ却テ讀者ノ疑惑ヲ生スヘケレハ之ヲ刪ルニ如カサルナリ又  
裁令ヲ經タル者ト裁令ハト云ヘルト殊異アリトノ説明アレトモ本  
官ハ其意ヲ解セス人民ニ在テモ亦恐ラクハ此ノ如ク解スルヲ得サ  
ルヘシ要スルニ太政官ノ裁令ニ對シテ更ニ訴フヘカラサルハ習慣  
上自ラ明白ナレハ此一句ヲ刪ルニ於テ何ノ顧慮カ是レアラシ

○三十六番<sup>津田眞道</sup>

本官ハ現問題ニ不同意ナリ其利害得失ハ既ニ各位

ノ辨論ニ盡キタレハ復タ本官ノ喋々ヲ要セサルヘシ蓋シ我太政官  
ハ支那ノ外歐米各國ニ在テ比類ナキ官衙ニシテ各省ノ上ニ位シ殆  
ント天皇陛下ノ御名代トモ稱スヘキ者ナリ廼チ布告ノ如キハ歐米  
諸國ニ於テハ各其皇帝大統領ノ名ヲ以テシ且主務卿之ニ連署スル  
ノ成規ナルモ皇國ハ太政大臣ト主務卿トノ連署ヲ以テスルノミ而  
シテ太政官ノ裁令ハ則チ天皇陛下ノ宸裁ナルニ依リテ二十番ハ又  
以下ノ文字ヲ不用ト爲スニ在ルヘキモ若シ其レ此ノ如ク見解ヲ下  
スニ於テハ此一句ノミナラス前文太政官ノ裁令云々モ亦無用ニ屬  
スヘシ然レトモ一旦請願トシテ之ヲ呈シ其裁定ヲ經タル者モ更ニ  
裁判ニ訴フルハ妨ケナシト思フカ如キ者之ナキニ非サレハ則チ本  
條ハ存セサルヘカラサルナリ因テ問題ヲ不可トス

○議長 發議盡キタルヲ以テ決ヲ取シ二十番ノ修正說ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者三人

○議長 少數ナルヲ以テ二十番ノ修正說ハ消滅ス他ニ發議ナクシハ本案ノ決ヲ取シ之ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十三人

○議長 多數ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第十二條 請願ヲ名トシテ行政處分ヲ抗拒セルコトヲ得ス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取シ本案ニ同意者ハ起立スヘシ  
起立者十五人

○議長 多數ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第十三條 凡ソ事ノ立法ニ關シ建白ニ屬スヘキ者ハ各自ノ利益ニ係ルヲ以テ請願スト雖モ受理セス 人民個害

○十三番 本田親雄 瑣キタルコトナレトモ本條中「人民各個」ヲ「人民各自」ト修正スルヲ可トス是レ午前第一條可決ノ修正ニ倣フテナリ

○三十番 長岡護美 賛成

○議長 午前第一條中「各個」ヲ「各自」ニ修正シタルハ各位ノ知ル所ナリ即チ前修正ノ意ヲ廢キ今書記官ハ各自ト朗讀シタレトモ特ニ十三番ヨリ修正說提出アリ次テ三十四番ノ賛成者アルヲ以テ之ヲ問題ト爲ス他ニ發議ナクシハ決ヲ取シ十三番ノ修正說ニ同意者ハ起

立スヘシ

起立者十五人

○議長 多數ナルヲ以テ十三番ノ修正説ニ可決シ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

○第十四條 行政處分ノ既ニ五年ヲ經タル者ハ何等ノ事由アルモ請

願ヲ受理セス

○三十三番 林友幸 本條中「行政處分ノ既ニ五年ヲ經タル者ハ云々請願

ヲ受理セス」トシ五年ヲ以テ區畫シタルハ其宜キヲ得タリト思考ス

レトモ「何等ノ事由アルモ」一句ハ妥當ナラサルニ依リ之ヲ削除ス

ヘシ

○十二番 大久保一翁 賛成

○議長 三十三番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○十四番 渡邊清 本官ハ案中成ルヘク圭角アル字句ヲ用ヒサルノ精神

ナルヲ以テ其旨趣ハ甚々現問題ニ同意ナルモ原來請願ノコトナレ

ハ五年ヲ經タル時ト雖モ猶ホ或ハ情ヲ酌テ特別ノ處分ナキヲ期セ

ス此際ニ方ヲハ却テ苦シム所アルヘシ故ニ熱心賛成スル能ハサレ

トモ本案ニ較フレハ寧ロ問題ヲ優レリトス

○二十番 三浦安 賛成ス之ヲ刪ルモ支障ナク之ヲ存スレハ却テ不体裁

ナレハナリ

○議長 發議盡キタルヲ以テ決ヲ取シ三十三番ノ修正説ニ同意者ハ

起立スヘシ

起立者十一人

○議長 多數ナルヲ以テ三十三番ノ修正説ニ可決シ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

○第十五條 請願人第二條ノ順序ヲ經ス及第三條第四條第五條第六條第七條第十一條ノ規程ニ循ハサル者ハ受理セス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立スヘシ  
全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第十六條 請願書ニ侮辱誹毀ノ語ヲ用ヒ及第二條ニ示ス所ノ官署ノ外ニ向ヒ請願スル者ハ受理セス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立スヘシ

全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第十七條 請願人ハ儀仗ニ逼近シ又ハ引謁ヲ乞フコトヲ許サス其不敬ニ涉ル者ハ刑法ニ依テ處分ス

○二十番 三浦安 本條ハ儀仗ニ逼近ト云ヒ引謁ヲ乞フト云ヒ天皇陛下

ニ關スル者ニテ原來是等ノ所爲ハ人民トシテ在ルヘカラサル事ナリ廻チ之ヲ示スハ却テ威嚴ヲ損スルノ恐レアリ尙ホ之ヲ詳説セハ請願ハ秩序ヲ逐テ爲スヘキ原則ニシテ之ニ依テ之ヲ爲セハ遂ニ宸裁ヲ仰クモ亦得テ能ハサルニ非ス而シテ之ニ違フテ直願スル如キハ第十六條ノ請願ハ云々第二條ニ示ス所ノ官署ノ外ニ向ヒ請願ス



ル者ハ受理セストノ條規ニ依テ之ヲ看ルモ其能ハサルハ自ヲ推測シ得ヘキナリ然ラハ儀仗ニ逼近シ又ハ引謁ヲ乞フカ如キ請願者ハ蓋シ之アルヘカラス若シ又強テ是等ノ所爲ヲ行フカ如キ不敬ノ徒アラシニハ本條之ヲ掲ケサルモ刑法ニ明文ノ在ル有レハ之ニ依テ處罰スル固ヨリ論ヲ俟タサルナリ畢竟此一條ハ起草ノ際主任者ニ在テ注意ノ深キニ失シタル謬リニシテ之ヲ掲クルハ啻ニ無用ナルノミナラス却テ聖德ヲ汚スノ嫌アリ因テ之ヲ削除スルヲ可トス但此修正說幸ニ行ハレタランニハ之ニ應シテ更ニ次條ノ「又ハ前條ノ場合ニ於テ」ノ十字ト「儀衛官」ノ三字トヲ刪ル修正ヲ提出スヘシ猶其詳カナルハ時機ヲ俟テ之ヲ辨セン

○議長 二十番ノ修正說ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス他ニ發議ナクシ

ハ本案ノ決ヲ取シ之ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十二人

○議長 多數ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第十八條 條規ニ違ヒ受理セラレサルノ請願ヲ以テ強テ受理ヲ請ヒ又ハ前條ノ場合ニ於テ警察官儀衛官ノ說諭ニ從ハサル者ハ十日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス其連名請願スル者ハ情ヲ知ラサル者ヲ除ク外各人均ク罪ヲ論ス其發起人ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス若シ請願人ノ外教唆者アルトキハ發起人ト同ク罪ヲ論ス其嘯聚ニ涉ル者ハ刑法ニ依テ處分ス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取シ本案ニ同意者ハ起立スヘシ

○起立者十四人

○議長 多數ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第十九條 請願人官吏ニ對シ論争シ喧擾ニ涉ル者ハ十一日以上一

年以下ノ輕禁錮ニ處ス

其侮辱ニ涉ル者ハ刑法ニ依テ處分ス

○十九番 鍋島直彬 本條ニ修正ヲ加フルヲ可トス是レ旨趣ニ非ス文字ニ

非ス止タ字句ノ位地ヲ轉スルニ在リテ乃チ第二項ノ「其侮辱云々」

ノ一句ヲ執テ第一項ノ末文ニ添加シ前第十七十八兩條ノ末文ト其

体ヲ同ウスル是レナリ思フニ此ノ如ク別項ニ記載シタルハ次條中

「前條第一項云々」ト云ンカ爲メナルヘキモ是等ハ「云々犯ス者ハ十

一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス」ト明瞭ニ記載スル寧ロ可ナルニ  
似タレハ敢テ顧慮ヲ要セサルナリ

○十四番 渡邊清 賛成

○議長 十九番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス他ニ發議ナ

クンハ其決ヲ取ン之ニ同意者ハ起立スヘシ

○起立者七人

○議長 少數ナルヲ以テ十九番ノ修正說ハ消滅ス他ニ發議ナクンハ

本案ノ決ヲ取ン之ニ同意者ハ起立スヘシ

○起立者九人

○議長 多數ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第二十條 請願書ハ新聞紙其他ノ文書ヲ以テ公行スルコトヲ許サ

ス犯ス者ハ罪前條第一項ニ同シ

○五番 鍋島 幹 本條ヲ修正シテ請願書及指令書ハ新聞紙其他ノ文書云

ヤト爲スヲ可トス思フニ本案ノ意モ亦當ニ然ルヘシ否ラサレハ到底請願書ノ公行ヲ禁シタルノ精神ヲ貫カサレハナリ

○十九番 鍋島 直彬 賛成

○議長 五番ノ修正說賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○六番 箕作 麟祥 本官等ハ本案修正ノ際注意此ニ至ラス今輕々之ヲ考フ

レハ問題ノ優レルカ如クナレトモ内閣ニテハ既ニ見ル所アツテ該文字ヲ掲ケサリシ乎本官ハ今其去就ニ苦シムヲ以テ一應之ヲ内閣委員ニ質ス

○外二番 井上 毅 屢動議ニ反對スルハ好マサル所ナレトモ今復々默ス

ルヲ得サル場合ニ至レリ請願書ハ世ニ公ケニスヘカラサル性質ノ者ニテ其受理如何ニ關セス之ヲ公ケニセハ爲メニ教唆煽動ニ涉ル

ノ弊害アルヘキモ指令書ハ秘スヘカラサル性質ノ者ニテ之ヲ公ケ

ニスルモ固ヨリ弊害アルヘカラサルニ由リ本員ハ原案ノ儘ニテ然ルヘキヲ信スルナリ

○十四番 渡邊 清 本官ハ大ニ現問題ニ不同意ナリ何トナレハ若シ此間

題ノ如クンハ人ヲシテ忽チ官署ハ陰密ニ事ヲ執ルカ爲メナリトノ感觸ヲ生セシムヘケレハナリ

○五番 鍋島 幹 請願書ハ世ニ公ケニスヘカラサル性質ノ者ニシテ指令

書ハ然ラストノ論辨アレトモ本官ハ原來請願書ト雖モ世ニ公ケニ

シテ妨ケナシトス只今日ハ請願ニ假託シテ良民ヲ煽動スルカ如キ弊アルカ爲メ之ヲ許サ、ルニ在リテ其性質ヲ云ハ、必スシモ秘スヘキ者ニ非ストス然レトモ指令書ハ之ヲ公布スルモ可ナリトセハ請願書ノ要旨ヲ摘ミ巧ニ筆ヲ弄シテ之ヲ世ニ公ケニシ到底本條ノ精神ヲ貫徹スル能ハサルニ至ルヤ蓋シ疑ヒナシ是レ本官ノ修正説アル所以ニシテ性質論ハ服スル能ハサルナリ

○六番 箕作麟祥

過刻辨シタルカ如ク指令書ノ揭示如何ハ修正委員タル本官ニ在テハ唐突ノ問題ナルヲ以テ先ツ之ヲ内閣委員ニ質シタルニ一應ノ説明アリ因テ之ヲ考フルニ指令書ト雖モ只願之趣難聞届候事ト云ヘル如キハ之ヲ新聞紙等ニ掲載セサルヤ明白ナレトモ指令中ニハ某縣下某郡某村ノ堤防ヲ云ヤスルハ云々ノ理由アルヲ以

テ云ヤト却テ請願書ヲ敷衍シタルカ如キ者モ亦之ナキヲ期セス是等ヲ執テ新聞紙ニ掲載スルニ於テハ本條ハ遂ニ徒法ニ屬スヘシ今日請願書ノ公行ヲ禁セサルヲ得サル時勢ニ在テハ指令書ト雖モ之カ公行ヲ禁スルハ又至當ナルヘケレハ本官ハ委員ノ一人ナルニ拘ハラス更ニ現問題ニ左袒ス

○三十五番 渡邊洪基

説ノ如ク修正委員中指令書ノ揭示如何ニ就テハ更ニ議論ナカリシカ今其利害ヲ論スルニ於テハ本官ハ本案ノ儘ニテ不可ナシトス原來請願ナリ建白ナリ之ヲ世ニ公ケニスルハ禁セサルヲ欲スレトモ之ヲ許セハ之ニ託シテ漫リニ良民ヲ煽動シ又ハ官府ヲ誹謗スル等ノ恐レアルニ依リテ之ヲ禁スル者ニシテ必スシモ好シテ之ヲ禁スルニ非ス然レトモ指令書ハ之ヲ公布スルモ決シテ

此ノ如キ顧慮ナク素ヨリ人民ニ對シテ秘密ノ指令ヲ爲スヘキノ理由ナケレハナリ然ラハ本條中特ニ指令書ノ文字ヲ加ヘテ不條理ニ不條理ヲ重テ人民ヲシテ抑壓ノ感慨ヲ懷カシムルカ如キコナキヲ要スヘシ加之指令書ノミ掲クル時ハ自然味ヒナキヲ以テ本案ノ如クンハ禁セサルモ遂ニ禁シタルト同一ノ効ヲ奏スヘシ且若シ請願書ノ要旨ヲ摘テ新聞紙ニ出ス等ノコトアランニハ該條例ニ依テ處罰スル等他別ニ處スヘキノ途アレハ是レ亦顧慮ヲ要セサルナリ

○十六番 神田孝平 本案ヲ至當ナリトス發議者等ハ指令書ノ公布ヲ禁セサレハ之ヲ種子トシテ巧ニ文ヲ舞シ請願ノ旨趣ヲモ世ニ公ケニシ遂ニハ本條ノ精神ヲ全ウスル能ハサルヘシト辨スレトモ其論旨ヨリ云ハ、指令書ノ公布ヲ禁スルモ亦同シク巧ニ文ヲ弄スヘシ畢竟

弄文ノコトハ法案外ニテ是等ハ三十五番ノ論スル如ク他ノ條規ニ依テ防制スル等ノコトアルヘケレハ是レ所謂杞人ノ憂ナリトス

○三十番 補田英世 現問題ハ實際上關係少ナカラサルニ依リ輕々之ヲ看過スヘカラス本官嘗テ審理局ノ委員トナリ某件ノ審理ニ關與セシカ其指令文ハ議會ノ訴ヘヨリ殆ント二倍ノ長キヲ爲セリ既ニ嚮日新聞紙上載スル所ノ和歌山縣令ノ指令ニ對スル裁定ノ如キ一方ハ云ヤト云ヒ他方ハ云ヤト云フ而シテ之ヲ裁定セハ云ヤト判然其理否ノアル所ヲ剖判セリ是等ヲ類推セハ既ニ請願書ノ公行ヲ許サル以上ハ之カ指令書モ亦同シク禁セサルヘカラサルニ似タリ然レトモ内閣委員ノ說ノ如ク指令書ハ果シテ秘スヘカラサル者ナリト判然了解スルニ於テハ本按ニ從フヘシ内閣委員ハ右陳ル如キ指令

ト雖モ尙ホ掲載シテ不可ナシト云フニ在ル乎

○番二番井上

現問題ノ如ク指令書ヲモ世ニ公ケニスヘカラストセ  
ハ政府ノ舉動ヲ世ニ秘スルト同一ニシテ古昔ハ知ラス今日ノ政体  
ニテハ外國ニ對スル機密條約ノ外萬アルヘカラサルノ理ナリ蓋シ  
朋友知己ノ間ニ在テハ他言ヲ禁シテ談話スルコトアルヘキモ政府  
ヨリ下シタル指令ヲ他ニ漏洩スヘカラストハ豈政府ヨリ人民ニ對  
シテ謂フヘキコトナラシヤ又三十番ハ指令書ヲ公ケニスルヲ許ス  
以上ハ請願書ヲ秘スルモ其効ナシ云ヤトノ説ナレトモ其指令ヲ下  
スノ日ハ則チ之ヲ以テ世ニ公ケニスルヲ許スノ日ナレハ縱ヒ幾許  
カ人民ノ意想ヲ害スル等ノコトアルモ之ヲ公ケニスルハ素ヨリ已  
ヲ得ス是レ猶ホ秘密ノ裁判ト雖モ其刑名宣告ノ日ニ至レハ各國共

ニ之ヲ公ケニスルト其理一ナレハナリ

○六番箕作 麟祥

番外二番ヨリ政府ノ所爲ハ外交ニ關スル者ノ外盡ク秘  
スヘカラスト云ヤト立派ナル説明アレトモ近ク之カ一例ヲ擧クレハ  
本日ノ會議モ既ニ內閣ノ要求ニ依テ傍聽ヲ禁セリ其他政府ノ所爲  
ハ果シテ人民ニ秘スル所ナキ乎那ノ秘密裁判ト雖モ刑名宣告ノ日  
ニ至リ之ヲ公ケニスル等ハ元來裁判ノ性質タル陰秘スヘカラサル  
者ナルニ由テナリ而シテ諸般ノ事皆之ヲ公ケニスヘキ時勢ナラン  
ニハ畢竟本條ハ無用ト云フヘシ目下三十番説ク所ノ審理局ノ裁定  
書ハ行政裁判ニ屬スルヲ以テ是等ハ如何ニ其事實ヲ詳記シタル時  
ト雖モ固ヨリ秘スヘカラサル者ナレトモ請願書ハ恩惠ヲ乞フ者ニ  
シテ裁判ニ係ル者トハ大ニ其趣ヲ異ニス則チ今日之ヲ公ケニスル

ヲ許ス能ハサル時ニ在テハ其指令書ト雖モ亦之ヲ公ケニスルヲ禁  
セサレハ遂ニ本條ノ精神ヲ貫徹スル能ハス若シ之ヲ公ケニシテ妨  
ケナシトセハ請願書モ亦同一ナラサルヘカラサルナリ

○三十六番 津田真道

本按ノ儘ニテ可ナリ其所以ハ番外二番ヨリ詳細辨  
明アリタルヲ以テ最早本官ノ喋々ヲ要セサルヘキモ聊カ之ヲ陳フ  
ヘシ三十番ハ審理局ノ裁定書ヲ採テ論スルニ似タレトモ彼ト此ト  
ハ其性質一ナラス又良シマ該裁定書ノ如キ詳明ナル指令書ヲ下シ  
タリト爲スモ既ニ指令ヲ畢ヘタル以上ハ秘セスシテ可ナリ原來本  
官ハ請願書ナリ建白書ナリ皆盡ク秘セサルヲ欲スルモ今日ハ早シ  
他日終ニ此ノ如クナルヘシ那ノ外國ト密ニ約シテ他國ヲ伐ント云  
フカ如キ之ヲ漏洩スルニ於テハ恐ルヘキ害アルヲ以テ是等ハ固ヨ

リ秘スヘキ事ナレトモ指令書ヲ新聞紙ニ掲クル如キ決シテ恐ルヘ  
キ事ニ非サルナリ論者ハ何ヲ苦ンテカ之ヲ禁セント欲スルヤ

○三十四番 長岡護美

本官ハ本按賛成者ノ一人ナリ六番等ヨリ本按ニ對  
シテ頗ニ懸念ノ説アルモ原來行政ノ事ヲ未然ニ秘スルハ最モ肝要  
ニシテ其既ニ裁決ナリタル以上ハ最前ノ如ク肝要ナラサルナリ本  
官ハ前ニ其主旨ヲ陳ント欲シタル際番外二番ヨリ既ニ之ヲ詳述シ  
タルニ依リ敢テロウ開カサリシカ之ヲ措テ他ニ其理由アルヲ知ラ  
サルナリ

○六番 笑作麟祚

三十四番ハ請願書ノ公ケニスヘシト否トハ其裁決ノ前  
後ヲ以テ判スルニ似タレトモ本按ノ文章ニテハ終始秘スル者ト解  
スルノ外ナキナリ因テ之ヲ一言ス

○三十番楠田英世

三十四番ハ請願書裁決ノ前後ヲ以テ之ヲ公ケニシテ可ナルト否トヲ區分シテ論スルトモ本官ハ本按ヲ解シテ其前後ニ依ラス總テ之ヲ公ケニスルヲ許サ、ルニ在リト思考シタリ番外二番ノ説明モ亦某議官ト同シク處分ノ前後ヲ以テ公ケニスルト否トヲ定ムルニ似タレトモ右ニ述ル如ク本官ハ遂ニ其意ヲ了スル能ハサルナリ

○三十五番渡邊洪基

三十番ハ請願書ヲ公ケニスルト否トハ裁決ノ前後ヲ以テ區分スヘシト説キタル者アルカ如ク論スレトモ是レ恐ラクハ誤解ナラン本官ハ未タ此ノ如キ説アリシヲ聞カサルナリ畢竟請願書ハ人民各自ノ便利ヲ陳ル者ニシテ素ヨリ官府ノ爲メニ計ル者ニ非サレハ之ヲ公ケニセハ目今ノ時勢ニ在テハ動モスレハ施政ノ

妨害ヲ爲スノ恐レアリ是レ今日己ヲ得サルニ其公行ヲ禁スル所以ナリ指令書ハ然ラス官府ヨリ發スル者ニシテ官府ニ在テハ固ヨリ公ケニスヘカラサルヲ指令スヘキ謂レナシ然ラハ原則上指令書ハ布告布達ト同シク公ケニスヘキ者ト看サルヘカラス乃チ請願書中如何ニ穩安ナラサル者アリテ之ヲ複寫シタルカ如キ指令書アリト看ルモ既ニ指令書トナリタル以上ハ之ヲ公ケニスルモ決シテ支障ナシ是レ那ノ治安ヲ妨害スルト認メ世ニ秘スル者モ裁判所ノ判決文ヲ以テ之ヲ公ケニスル時ハ世ニ害ナキト同様此ニ至テ其性質ハ全ク一變スヘケレハナリ

○番外二番井上毅

本員ハ最早多辨ヲ費サ、ルノ意見ナリシニ目下三十番ヨリ番外二番ハ本條ノ精神ハ指令ノ前後ヲ以テ公ケニスルト否



トヨ區別ス云ヤトノ説アリシ以上ハ其誤解ヲ正サ、ルヲ得ス蓋シ  
 内閣委員ノ説タ所ハ本院ノ記録ニ登リ將來法律ノ精神トナルヲ以  
 テナリ本官前コ裁判所ノ一例ヲ舉ケタルハ秘密裁判ノ如キ訊問等  
 ノ時ニ在テハ之ヲ世ニ秘スルモ其宣告ハ之ヲ公ケニスト云フニ在  
 リテ裁判ヲ畢レハ訊問中原被告ノ陳述シタル事ヲモ公ケニストノ  
 意ニ非ラス猶ホ言ヲ代ヘテ之ヲ説カハ請願書ハ秘密裁判ト同シク  
 之ヲ秘スルモ其指令書ハ其宣告書ト同シク之ヲ公ケニスヘシト云  
 フカ如クニシテ決シテ指令前ハ秘スヘシ指令後ハ秘セスシテ可ナ  
 リトノ意ニ非サルナリ

○三十四番 長岡護美

本官モ爰ニ六番及三十番ノ誤解ヲ正スヘシ過刻本  
 官ノ辨スル所ハ請願書ハ裁令前ニ秘スルハ特ニ肝要ニシテ裁令後

ハ前ニ較フレハ肝要ナラスト云フニ在リテ裁令後ト雖モ之ヲ秘ス  
 ルハ本官ノ素ヨリ不可トセサル所ナリ

○二十番 三浦安

現問題ニ不同意ナリ抑本案ノ不可ナキ理由ハ番外二  
 番ノ堂々タル辨明ニテ充分ニ了解セリ本官モ請願書ハ指令濟ト否  
 トニテ大ニ關係アリトス何トナレハ縱ヘ官府ニ於テ受理スヘカラ  
 サルカ如キ不當ノ文書ト雖モ請願書トシテ之ヲ呈スルハ人民ノ隨  
 意ナリ而シテ官府ニ於テ之ヲ受理シ之ニ指令ヲ付スル者ノ如キニ  
 至テハ右等ト其類ヲ異ニスルヤ分明ナレハナリ廻チ請願書ト雖モ  
 亦猶ホ之ヲ秘セスシテ可ナルニ似タル程ナレハ之カ指令書ヲ公ケ  
 ニスルニ大イナル支障ナキヲ信スルナリ

○議長 發議盡キタルヲ以テ決ヲ取シ五番ノ修正説ニ同意者ハ起立

スヘシ

起立者三人

○議長 少數ナルヲ以テ五番ノ修正説ハ消滅ス他ニ發議ナクンハ本案ノ決ヲ取ン之ニ同意者ハ起立スヘシ  
起立者十三人

○議長 多數ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第二十一條 請願ニ由リ人ヲ誣告スル者ハ刑法第三百五十五條ニ

依テ處分ス

右奉 勅旨布告候事

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立スヘシ

全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ此ニ第二讀會ヲ畢ル第三讀會ノ會議期日ハ追テ報告スヘシ散會セヨ

午後第五時閉場

元老院會議筆記明治十五年七月三十日

禁傍聽

○第三百三十九號議案

請願規則  
布告案

第三讀會

議長 佐野  
常民

出席議官

三番	柴原	和
五番	鍋島	幹
六番	箕作	麟祥
十二番	大久保	一翁
十四番	渡邊	清
十五番	伊丹	重賢
十六番	神田	孝平

- 十八番 東久世通禧
- 二十番 三浦 安
- 廿一番 鍋島 直大
- 廿三番 岩下 方平
- 廿八番 四條 隆謨
- 卅一番 西 周
- 卅三番 林 友幸
- 卅四番 長岡 護美
- 卅五番 渡邊 洪基
- 卅六番 津田 眞道
- 内閣委員 一番 水本 成美

同

二番 参事院議官 井上 毅

三番 参事院議官 補久保田貫一

午前第九時開場

○議長 第三百三十九號議案ノ第三讀會ヲ開ク書記官朗讀ノ後例ニ

○遵ヒ發議スヘシ

書記官 森山 茂 左ノ案ヲ朗讀ス

○報告案

請願規則左ノ通制定ス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立スヘシ

全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂

左ノ案ヲ朗讀ス

請願規則

第一條 人民各自ノ利害ニ關シ行政上ノ處分ヲ請願セントスル者ハ左ノ條規ニ依ルヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取シ本案ニ同意者ハ起立スヘシ  
全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第二條 郡區長及戶長職務内ノ事件ハ郡區長戶長ニ請願スヘシ郡區長戶長ノ指令ニ服セサル者ハ府知事縣令ニ請願シ府知事縣令ノ指令ニ服セサル者ハ主務卿ニ請願シ主務卿ノ指令ニ服セサル

者ハ太政官ニ請願スルコトヲ得

府知事縣令警視總監職務内ノ事件ハ府知事縣令警視總監ニ請願スヘシ府知事縣令警視總監ノ指令ニ服セサル者ハ主務卿ニ請願シ主務卿ノ指令ニ服セサル者ハ太政官ニ請願スルコトヲ得  
各省卿職務内ノ事件ハ其卿ニ請願スヘシ其指令ニ服セサル者ハ太政官ニ請願スルコトヲ得

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取シ本案ニ同意者ハ起立スヘシ  
起立者十六人

○議長 多數ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ  
書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第三條 凡ソ請願スル者ハ書面ヲ以テスヘシ口陳スルコトヲ許サ

ス官署ノ求メニ應シテ開陳スルハ此限ニ在ラス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立スヘシ

○全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第四條 請願書ハ請願人自ラ署名捺印シ族籍住所ヲ記シ戸長ニ請

願スル者ヲ除ク外住所戸長ノ奥印ヲ受クヘシ其連名ヲ以テ請願

スル者ハ各人自ラ署名捺印シ族籍住所ヲ記シ其總代又ハ請願發

起人アルトキハ其由ヲ肩書スヘシ戸長ノ奥印ヲ受ルハ前ノ例ニ

同シ

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十六人

○議長 多數ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第五條 府縣郡區總代又ハ結社總代ノ名ヲ以テ請願スルコトヲ得

ス但成法ニ制定セラレタル會社ハ此限ニ在ラス

○二十番 三浦安 本條中「成法云々」ノ一句ニ修正ヲ加フヘシ外國ノ憲

法等ヲ觀ルニ概シテ會社ノ其職業トスル所云ヤトアリテ其職業外

ニ涉ルヲ許サス是レ大ニ其理ノアルコトニテ本條ノ如クハ職業

外如何ナル事件ニ就テモ亦總代ノ名ヲ以テ請願シ得ルノ嫌ヒアリ

因テ之ヲ改メテ但成法ニ制定セラレタル會社ノ其職業トスル所ノ

事件ヲ以テスルハ此限ニ在ラスト爲スヲ可トス

○議長 二十番ノ修正説ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス他ニ發議ナクン  
ハ本案ノ決ヲ取シ之ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十六人

○議長 多數ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第六條 請願書ヲ上呈スルニハ代人ヲ以テスルコトヲ許サス數人  
連名スル者ハ請願人中ニ於テ三名以下ノ總代人ヲ撰ヒ之ニ委託  
スヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取シ本案ニ同意者ハ起立スヘシ  
全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第七條 請願書ハ郵便ヲ以テ上呈スルコトヲ得

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取シ本案ニ同意者ハ起立スヘシ  
全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第八條 上司ニ呈スル請願書ニハ其經歷スル所ノ官署ノ指令書ヲ  
添フヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取シ本案ニ同意者ハ起立スヘシ  
全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山 茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第九條 請願書ノ郵達ヲ得タル各省若シ其主務ニ非サルトキハ直  
チニ之ヲ主務省ニ移シ其由ヲ請願人ニ通知スヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立スヘシ  
起立者十六人

○議長 多數ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山 茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第十條 太政官ニ於テ請願ヲ裁可スルトキハ主務省ニ付シテ處分  
セシムヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立スヘシ  
起立者十六人

○議長 多數ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山 茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第十一條 太政官ノ裁令ヲ經タル者ハ更ニ請願スルコトヲ得ス又  
裁判所ニ訴フルコトヲ得ス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立スヘシ  
起立者十六人

○議長 多數ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山 茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第十二條 請願ヲ名トシテ行政處分ヲ拒ムコトヲ得ス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立スヘシ  
全員起立



○議長 全會一致ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第十三條 凡ソ事ノ建白ニ屬スヘキ者ハ人民各自ノ利害ニ係ルヲ以テ請願スト雖モ受理セス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立スヘシ  
全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第十四條 行政處分ノ既ニ五年ヲ經タル者ハ請願ヲ受理セス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立スヘシ  
全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第十五條 請願人第二條ノ順序ヲ經ス及第三條第四條第五條第六條第八條第十一條ノ規程ニ循ハサル者ハ受理セス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立スヘシ  
全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第十六條 請願書ニ侮辱誹毀ノ語ヲ用ヒ及第二條ニ示ス所ノ官署ノ外ニ向ヒ請願スル者ハ受理セス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立スヘシ

全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官

森山茂

左ノ案ヲ朗讀ス

第十七條 請願人ハ儀仗ニ逼近シ又ハ引謁ヲ乞フコトヲ許サス其不敬ニ渉ル者ハ刑法ニ依テ處分ス

○二十番

三浦安

本條ハ削除スヘシ蓋シ此說ハ本官第二讀會ニ於テ提

出シタレトモ辨明ノ不充分ニシテ議場ニ徹底セサルノ故乎一人ノ賛成者ヲ得サリキ而シテ爾來一兩日ヲ經過シタルヲ以テ各位ニ於テモ亦其利害得失ヲ案スル一層深密ナルヘシト考フ抑本條ハ儀仗ニ逼近シ又ハ引謁ヲ乞フ云々トアリテ本規則中大ニ突出ノ感アリ是レ恐ラクハ從來國會願望ヲ始メ請願等ノ名ニ依テ漫ニ至尊ニ咫

尺セントシタル者之アルヲ以テ掲載シタルニ在ルヘキモ是等ハ淺薄ナル理由ニシテ且既ニ本規則ノ制定ニ至リタル以上ハ人民ニ在テ強テ引謁ヲ乞ハサルモ請願ヲ欲スル者ハ戶長等ノ職務内ニ屬スル者ト雖モ秩序ヲ經ハ遂ニ太政官ニ開申シ天廳ニ達スルヲ得ヘキハ明瞭ナレハ其意想モ亦前日ノ如キニアラサルヤ必セリ苟モ言路洞開ノ本規則ニ此一條アルハ所請蛇足ニシテ之ヲ掲クルハ徒ラニ狹隘ヲ示スモノナリ且天子ノ尊キハ尙ホ天日ノ如ク仰キ近クハカヲサル者ナルニ引謁ヲ求ムル如キハ天ノ爲セル自然ニ悖レリ況ヤ第十六條ニモ「云々及第二條ニ示ス所ノ官署ノ外ニ向ヒ請願スル者ハ受理セス」トノ明文アレハ直願ノ得テ爲ス能ハサルハ推シテ知ルヘキヲヤ然ラハ本條ハ一ノ効用ナクシテ止タ聖德ヲ汚スノ恐レノ

ミナレハ宜シク之ヲ删除スヘシ但此修正ニシテ幸ニ可決シタランニハ更ニ次ノ第十八條中「又ハ前條ノ場合ニ於テ警察官儀衛官」ノ一句ヲ削リ且第十八條「第十七條トシ以下順次其條名ヲ更ムルノ修正說ヲ提出スヘシ幸ニ成規ノ賛成者ヲ得テ問題ト爲ラン」ヲ切望ス

○十五番 伊丹重賢 賛成

○廿八番 四條隆調 賛成

○廿一番 鍋島直大 賛成

○卅三番 林友幸 賛成

○卅四番 長岡護美 賛成

○議長 二十番ノ修正說ハ成規ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○三十五番 渡邊洪基 現問題ハ至重ノ者ニシテ其精神ハ嘉スヘキモ是レ

當時ノ世態ニ適セサルノ動議ナルヲ如何セン何トナレハ若シ引謁ヲ許スノ精神ナランニハ削除ノ說モ亦宜ヘナリト雖モ二十番ハ之ヲ許サ、ルノ意ナルヘケレハ之カ明文ヲ示スハ目今ノ時勢ニ在テハ萬己ヲ得サルナリ夫レ從來ノ慣習ナレハ主上ニ引謁ヲ乞フヲ得ル者ハ公家ニモ堂上雲上人ノ若干名ヲ限り武家ノ如キハ高位高官ノ人ト雖モ殆ント無クシテ平民ニ至テハ固ヨリ企テ望ムヘカラサルコトナリキ猶ホ其甚タシキハ一タヒ天顏ヲ拜セハ忽チ目ヲ盲ストノ說ハ依然トシテ人口ニ膾炙シタリ然ルニ維新以來歐米ノ風稍ク行ハレ草莽ノ士ト雖モ亦引謁ヲ許サル、者アルニ至リ既ニ遷都ノ命モ天子ハ九重ノ内ニ在マシ下情ニ遠サカルヘカラストノ某大

臣ノ建白ニ成レリ且維新ノ基礎ハ日本ノ古代ト支那三代ノ政トニ  
 則トリ而シテ言路洞開ノ爲メ漸次廣ク謁見ヲ許サル、ニ至リテ從  
 來ノ慣習ハ遂ニ地ヲ拂ヘリ加之人民トシテ其國帝ニ引謁ヲ乞ヒ又  
 直願スル等ハ文明諸國ニ在テハ敢テ珍ラシトセス是レ固ヨリ當然  
 ノ理ナリト云フカ如キ西洋風ノ理論日ニ増シ月ニ熾ニシテ之カ爲  
 メ漸々引謁ヲ乞フ者多ク今日ニ在テハ其弊ヤ遂ニ秩序ヲ紊リ皇室  
 ノ尊榮ヲ冒瀆スルカ如キ勢ヒニ陥井リ那ノ九重ノ牆壁モ全ク破壊  
 シタルカ如シ迺チ本條ハ所謂無用ノ者入ルヘカラス若クハ御用ノ  
 外入ルヘカラスト云ヘルカ如キ制札ヲ建ルト一般前日ノ世態ナレ  
 ハ此等ハ眞ニ無用ナレトモ今日ハ往々猥ニ入ル者アルノ秋ニ際シ  
 タレハ之ヲ設クルハ頗ル要用ナリトス論者或ハ云ン若シ然ルモ許

サ、レハ可ナリト然レトモ之ナクシハ其入ル者ヲ制スルニ難ク又  
 之ヲ罰スルハ教ヘサル民ヲ罰スルノ理ナレハ之ヲ設クルハ今日ニ  
 在テハ萬止ヲ得サルナリ是レ本官カ現問題ヲシテ今日ノ世態ニ適  
 セサル者ナリト爲ス所以ナリ

○十五番 伊丹重賢

本官ハ現問題ニ左袒シタル一人ナリ前會ニハ病痾ノ

爲メ午後ノ會議ニ列セサリシヲ以テ當時ノ景況如何ヲ知ラサレト  
 モ本條ニ就テハ豫テ疑フ所アリシニ幸ニシテ本日二十番ノ詳細ナ  
 ル辨明ヲ聽キ一層感發シタル所アルニ依リテ斷然意ヲ決シテ其削  
 除說ヲ贊成シタリ爰ニ本條ノ存スヘカラサル理由ハ既ニ動議者ノ  
 說明ニ稍ヤ盡クセルニ似タレトモ尙ホ本官ノ所見ヲ辨セシ本官ハ  
 之ヲ存スルハ特ニ狹隘ヲ示シ聖德ヲ損スルノミニ止マラストス某

議官ハ修正委員タルヲ以テ之カ維持説ヲ爲ス甚タ勤メタリト雖モ其説ハ之ヲ約スルニ之ナクハ引謁ヲ乞フ者ニ對シテ拒絕スルノ言ニ乏シト云フニ過キス然ラハ請願ニ非スシテ國家ノ一大事ヲ奏上セント云フカ如キ者アラハ引謁ヲ許サルヘキ乎恐ラクハ然ラサルヘシ其レ然リ明文ナキモ他ハ拒絕スルヲ得ハ請願ニ限り豈特ニ此明文ヲ要スルノ理アラシヤ廻チ請願ノ爲メ會マ引謁ヲ乞フ者アルモ他ト同シク之ヲ拒絕スヘシ而シテ若シ強テ之ヲ乞フカ如キ者アラシニハ宜シク刑法ニ依テ之ヲ處罰スヘシ又本條ハ無用ノ者入ルヘカラストノ制札ヲ建ルト同シク之ナクハ入ル者ヲ禁スル能ハストノ比喩アレトモ原來本規則ハ請願者入口ト云ヘル榜示ヲ出シタルト同一ナレハ其之ヲ建テサル處ニ來ル者ハ止タ途ニ惑ヒタルニ

外ナラサレハ之ヲ斥クルニ何ノ難キカ之アラシ蓋シ本案ニ就テハ嚮日議長ノ宣告ニ依リ本官モ亦嘗テ意見ノアル所ヲ記シテ修正委員ニ提出シタリシニ概シテ其採用スル所トナリタルヲ以テ他ハ甚タ満足ナレトモ止タ本條ノミハ同意スル能ハサルナリ

○番二番井上

外穀 本條ノ削除説ハ第二讀會以來二十番ノ熱心論辨スル

所ニシテ其旨趣ハ帝室ヲ尊崇スルニ外ナラサレハ本員等ニ在テモ前會以來再三其利害得失ヲ熟考シタルニ本條ハ斷シテ存セサルヘカラサル理由ヲ發見シタルニ依リ今削除説ノ問題トナリタル以上ハ之ヲ辨セサルヲ得ス但少シク枝葉ニ涉ルニ似タレトモ先ツ二三ノ例ヲ舉テ削除ノ不可ナル所以ヲ證スヘシ爰ニ明治十一年府縣會規則ノ議案ヲ内閣ヨリ本院ニ下付セラレタルコアリキ然ルニ其第

一條ノ末文「泛ク大政ニ及フヲ得ス」ト云ヘルハ徒ニ狹隘ヲ示スニ似タリ之ナキモ大政ニ論及スヘカラサルハ自ラ知ルヘケレハ寧口之ヲ削ルヘシトシテ本院ニ於テ之ヲ刪リテ上奏シタリ然ルニ爾後三四年ヲ出スシテ各府縣ニ於テ續々大政ニ論及シ甚タシキハ縣令ノ公選及其免官ヲ建議スルノ議會アルニ至レリ若シ當時那ノ末文ヲ削除セサランニハ斯ノ如キ今日ノ混雜ヲ看サルヤ明カナリ即チ今日日本條ヲ削ラントスル論者モ焉ソ知ン爾後兩三年ヲ出スシテ復タ之ヲ掲ケント云フニ至ルヘキヲ又新律綱領中謀叛大逆ノ律ハ皇國ニ在テハ無用ナリトシテ嘗テ之ヲ削リタルカ爲メ後日國事犯者ノ處分ニ窮シタルコアリ又讒謗律中「乘輿ヲ犯スニ渉ル者云々」トアリ是レ人民トシテ固ヨリアルヘカラサルノ理ナルヲ以テ前日ハ

之ヲ削ルヲ欲シタルモ近來ニ在テハ續々此律ヲ適用スヘキ者アルニ至レリ本條モ亦兩三年ヲ出スシテ其要用ヲ看ルノ日アルヘシ猶ホ仔細ニ之ヲ陳述セハ本案ヲ讀ム者ハ必スヤ先ツ請願書ハ九重ノ上ニ達スルヲ得ルヤ否ヤ之ヲ叩クヘシ何トナレハ是レ人民固有ノ權利ニシテ憲法ニ屬スヘキ者ナレハナリ且ヤ各國共ニ請願ハ其國主權ノアル所ニ之ヲ爲スヲ許スニ依リ權利論ヨリ遡レハ引調ヲ乞フモ亦得テ能フヘカラサルニ非サルナリ之ヲ歴史ニ徵スルニ普國王維廉幼年ノ時一日馬ニ駕シテ市中ヲ行キタルニ請願者續々王ノ左右ニ群集シタルカ爲メ王ハ馬ヲ驅テ其混雜ヲ避ケタルコアリ又佛國王路易十六世ノ「ヴェルサイル」府ニ至ラントシタル時其國ノ貧民王ニ迫テ麵包ヲ請ヒタルコアリ不祥ノ例ハ之ヲ擱キ我國ニモ

平城天皇以前ハ賤シキ百姓共申書ヲ御前ニ捧ケタリト史乘ニ載セタルヲ觀レハ蓋シ人民ヨリ直チニ請願書ヲ捧呈シタルニ在ルヘシ是ニ由テ之ヲ考フルモ將來恐ラクハ種々ノ請願書ヲ呈スル者アルヘシ原來熱心請願ヲ欲スル者ハ浮雲白日ヲ掩フト云フカ如キ感慨ヲ懷ク者多ク此輩ニ至テハ蓋シ地方長官ハ勿論各省卿ニ面請スルモ未タ以テ満足セス一タヒ引謁ヲ乞テ之ヲ直願スルヲ得ハ則チ死ストモ憾ミナシト爲スヘシ是レ往時ノ籠訴アル所以ニシテ其衷情實ニ愍諒スヘキナリ即チ本條ヲ掲ケテ豫メ之ヲ防カサレハ兩三年ノ後ハ強テ引謁ヲ乞ヒ警察官若クハ儀衛官ノ説諭ニ服セス甚シキハ遂ニ罪科ニ處セサルヲ得サルカ如キトアルニ至ルヤ疑ヒナシ是レ本官ノ本條ハ存セサルヘカラスト爲ス所以ナリ且ヤ枝葉ニ渉ル

カ如クナレトモ目下十五番ヨリ引謁ヲ乞ハ、刑法ニ依テ處分スヘシトノ説アルモ刑法ニハ不敬ノ所爲ヲ罰スルノ明文ニ止マリ是レ謀叛大逆ニ亞ク所ノ重大ナル所行ニシテ請願者ノ引謁ヲ乞フ者ノ如キハ特ニ警察官ヲシテ説諭セシムルニ過キサルノミ又發議者等ハ本條ヲ存スレハ狹隘ヲ示シ威嚴ヲ損スルノ恐レアリト辨スレトモ是レ新律綱領中謀叛ノ條ヲ掲ケ讒謗律中「乘輿ヲ犯スニ渉ル者云々」ト載スルヲ否トスルト同シク苟モ皇國ノ人ニシテ是等ノ所爲ヲ爲ス者ハ萬有ルヘカラストノ精神ニ外ナラサルヘキモ刑法ニモ皇室ニ對スル罪ノ一章ヲ掲ケ又讒謗律ニモ前述ノ如キ明文ヲ載セサルヲ得サル世態ナルヲヤ又況ヤ帝室ト人民トノ關係ハ特ニ明掲セサルヘカラサル者ナルニ於テヲ抑之ヲ明掲スルハ何ソヤ是レ其

處分ニ苦シムアルヲ以テナリ故ニ本員ハ之ヲ存スルモ決シテ狹隘ヲ示サス又皇室ノ威嚴ヲ損セス却テ之ヲ削レハ兩三年ヲ出スシテ實際支障アルヲ確信スルナリ

○十八番 東久世通禧

二十番ヲ賛成ス實ハ前會ニ於テ之ヲ賛成スヘキニ第二條等ニ係リ許多ノ時間ヲ費シタルト他ニ又少シク疑フ所アルヲ以テ之ヲ擱キタリ目下番外二番ハ請願ヲ爲ス者ノ如キハ刑法ニ依テ論スヘカラスト辨スレトモ本官ハ猶ホ之ニ依テ其罪ヲ論シテ可ナリトス又路易十六世等ノ比喻アレトモ是レ非常ノ例ニシテ萬一斯ノ如キ時勢ニ至ラハ如何シテカ能ク此請願規則ニ依テ處スルヲ得ヘケンヤ又本案ハ原來言路洞開ノ意ヲ主トシテ成立シタル者ナルニ本條ヲ以テ「請願人ハ儀仗ニ逼近シ又ハ引調ヲ乞フコトヲ許

サス云々」ト揭示シタルハ入口ノ中ニ又入ルヘカラスト云ヘル禁傍ヲ貼スルニ似テ頗ル穩當ナラサルナリ而シテ是ノ如キハ特ニ掲載セサルモ強テ請願ヲ乞フ者ハ前ニモ陳ル如ク固ヨリ刑法ニ依テ處罰スヘシ但從前是等ノ輩ニシテ處罰ヲ免レタル類例アレトモ是レ當時本規則ノ未タ制定ナキニ由テナリ又讒謗律ノ引例アレトモ彼ト此トハ其性質ヲ異ニシ本案ハ言路洞開ノ主旨ニ成ル者ナレハ本條ノ如キ明文ヲ掲ケテ狹隘ヲ示スハ本官等ノ頗ル嫌フ所ナリ但素ヨリ番外二番ノ比喻ノ如キ變ニ際セハ叛逆ヲ以テ論スル等他ニ亦之ヲ處スルノ途アルヘシ到底本條ハ之ヲ削ラサレハ本案ノ美意ヲ塗抹スルノ恐レアルヲ以テ現問題ニ可決センコトヲ希望ス

○三番 柴原和

本官ハ前會病ニ依リ缺席シタルヲ以テ當時ノ景況ヲ知



ヲサレトモ今二十番ノ本條削除説ヲ聞クニ前會ニハ一人ノ賛成者  
 ヲモ得サリシト云フ然ルニ本會ニ於テ一タヒ其説ノ出ルヤ續々賛  
 成者アリテ既ニ問題ト爲レリ本官モ當初ヨリ之ヲ存スル如何ト認  
 メタルニ依リ今謹テ之ニ左袒ス蓋シ其削除スヘキ理由ハ動議者及  
 賛成者ヨリ縷々辨明アリタルヲ以テ復タ他ニ説明ヲ要セサルヘシ  
 ト雖モ本官モ亦聊之ヲ辨セン番外二番ハ喋々本條ノ存スヘキ理由  
 ヲ説キ又三十五番ノ説モ一理ナキニ非サレトモ一言以テ本官ノ意  
 ヲ陳レハ本官ハ之ヲ存スルハ止タ腦髓ニ安セスト云フニ過キサル  
 ノミ今番外二番ハ外國ノ例ヲ引テ本條ノ削ルヘカラサル一喩ト爲  
 シタレトモ彼ヲ以テ我ニ比スル如キ不祥ノ言ハ本官ノ太々聞ヲ厭  
 フ所ナリ抑今日皇國ノ政體ヲ案スルニ諸般ノ事外國ニ則トル者多

キモ是レ其長ヲ取リテ短ヲ補フノ意ニ外ナラス乃チ國憲ヲ制定シ  
 明治二十三年ニ至リ國會ヲ開設スルモ帝室ノ尊榮ハ依然トシテ昔  
 日ノ如クナラサルヘカラス而ルニ今此法案ヲ製スルニ當リ引謁云  
 ヲ等ノ條ヲ設クルハ本官ノ太々心ニ安セサル所ニシテ之ナキモ萬  
 ヲ支障ナキヲ信スルナリ説ノ如ク近來民權論者等ナキニ非サルモ  
 是等ハ以テ瘋癲人ト看ルヘシ苟モ本案ヲ設クル以上ハ本條ノ如キ  
 安カラサル者ヲ去リテ人民ノ充分ニ納得スルカ如ク爲スヘシ果シ  
 テ然レハ請願書ハ概子大臣ノ許ニ達スル迄ニシテ止ミ番外二番ノ  
 謂フ所ノ一引謁ヲ得テ請願ヲ爲スアラハ死ストモ悔スト云フカ如  
 キ狂人モ自ラ減少スヘシ又引謁ヲ乞フ者アランニハ先ツ之ヲ諭シ  
 聞カサレハ官吏ニ對シ抗論スル者トシテ十一日以上一年以下ノ輕

禁錮ニ處スル如キモ亦不可ナキニアラスヤ又番外二番ノ憂慮スル  
 點ノ裏面ヨリ之ヲ論セハ本條ヲ存スレハ却テ處分ニ窮スル事アル  
 ヘシ何トナレハ是レ請願者ノミニ關スル法文ナレハ其他ノ人ハ皆  
 盡ク引謁ヲ乞フヲ得ルヤ又聖上ニ拜謁ハ許サレサルモ大臣ニ謁ス  
 ルハ能ハサルニ非サルヘシト爲スカ如キ誤解ヲ來スヘケレハナリ  
 而シテ讒謗律ノ引例ハ十八番ノ論辨ノ如ク當ラサルナリ又府縣會  
 規則ノ引例アルモ那ノ大政ニ論及スル如キハ皆幾許カ地方稅ニ關  
 係アルカ爲メニ根スル者ニシテ必スシモ那ノ「大政云々」ノ明文ヲ  
 削リタルト否トニ關セサルナリ今日縣令公選等ノ建議アルモ未タ  
 以テ各省卿公選ノ建議ナキハ即チ其一證ナリ又之ヲ削レハ兩三年  
 ノ後請願者ノ爲メ苦シムコトアルヤ必セリトノ論駁アレトモ本官ハ

斯等ノコトハ官吏ニシテ厚ク注意シ百年千年萬年ノ末ニ至ル迄ナカ  
 ラシメンコトヲ切望スルナリ本官ノ削除說ニ左袒タル理由ハ以上  
 辨スルカ如ク爾リ

○六番 箕作麟祥

本條ヲ削ルノ動議ニハ前會一人ノ賛成者ナカリシニ本  
 會ニ在テ再ヒ其說ノ出ルヤ追々之ヲ賛成スル者アルハ眞ニ驚クニ  
 堪ヘタリ抑問題ノ不可ナルハ三十五番及番外二番ノ縷々辨明スル  
 カ如シ爰ニ動議者及賛成者ノ之ヲ削ルヘシト爲ス理由ヲ聽クニ甲  
 乙各其主義ヲ異ニシ發議者ハ引謁ヲ乞フ如キハ臣子タル者ノ分ニ  
 於テアルヘカラス故ニ削ルヘシト云ヒ某議官ハ本案ハ言路洞開ノ  
 旨趣ニ成ル者ナリ故ニ除クヘシト云フテ恰モ引謁ハ許サ、ルヘカ  
 ラスト爲スカ如ク甲乙大主眼ニシテ既ニ此懸隔アリ本說ノ不妥ナ

ル以テ想フヘシ又論者中番外二番ノ刑法ヲ以テ論スヘカラス云ヤ  
ト云ヘル辨明ヲ誤解シタル者アルカ如シ蓋シ番外二番ノ意ハ本條  
ニハ「儀仗ニ逼近シ又ハ引謁ヲ乞フコトヲ許サス其不敬ニ涉ル者ハ  
云ヤ」トアリ素ヨリ尊上ニ對スル不敬ノ所爲ハ刑法ニ依テ罰スヘキ  
モ儀仗ニ逼近シ若クハ引謁ヲ乞フ者ノ如キハ之ヲ如何トモスル能  
ハスト云ヒタルニ在ルヘシ又發議者ノ本條ヲ削ルヘシト爲ス一理  
由トシテ第十六條ヲ引用スレトモ彼ト此トハ全ク其主旨ヲ異ニシ  
此ハ儀仗ニ逼近シ若クハ引謁ヲ乞フヲ禁スル者ナリ彼ハ「云ヤ第二  
條ニ示ス所ノ官署ノ外ニ向ヒ請願スル者ハ受理セス」トアリテ即チ  
郡區戶長職務内ノ事件ヲ府縣廳ニ請願シ府知事縣令職務内ノ事件  
ヲ各省卿ニ請願スル等ヲ云フニ過キサルナリ又三番ハ本條ヲ一讀

セハ請願者外ノ者ハ引謁ヲ乞フヲ得ルカ如シ云ヤ故ニ之ヲ削ルヘ  
シト論スヘシトモ看ルヘシ巡幸等ノ際聖上ニ引謁ヲ乞フ者ハ果シ  
テ何ノ爲メソ其大ナルモ公債證書ノ處分等其他何ト云ヒ彼ト云ヒ  
皆盡ク人民各自ノ利害ニ關スル者ノミ故ニ請願者ノ引謁ヲ乞フヲ  
禁スレハ則チ足レリ萬一其他ノ者ニシテ引謁ヲ乞フ如キコトアラ  
ンニハ別ニ法令ヲ作ルモ亦晚カラサルナリ又番外二番ノ外國ノ例  
ヲ引キタルニ就キ駁議アレトモ論者モ知ル如ク近來我國ニ在テハ  
諸法律等外國ニ則トル者尠ナカラス而シテ外國ニハ民トシテ其國  
帝ニ引謁ヲ乞ヒ又請願書ヲ呈スル如キハ法ノ許ス所ナレハ本條ナ  
クンハ皇國ニ在テモ亦引謁ヲ乞ヒ請願書ヲ呈スル如キハ許サル、  
事ト解スル者アルヘシ否現ニ佛國若クハ英國等ノ憲法ヲ引證シテ

聖上ニ引謁ヲ乞フ者アリ即チ皇國ニ在テハ事實引謁ヲ許サ、ルニ於テハ明カニ之ヲ示スヘシ然ラスシテ之ヲ禁スルハ教ヘスシテ罰スルニ近シ教ヘテ聞カス尙ホ強テ請願スルカ如クンハ則チ刑法ニ依テ罰スルモ亦已ヲ得サルナリ要スルニ今若シ本條ヲ除去セハ前日國會願望者ノ爲メ官民共ニ困苦シタルカ如キ景況ヲ他日ニ看ルアルヤ必セリ因テ本條ハ須ラク存セサルヘカラストス

○三十六番津田眞道 本官ハ之ヲ存スルヲ可トス三十五番及番外二番ヨリ詳細ナル論辨アリタルヲ以テ最早論セスシテ可ナルニ似タレトモ一應本官ノ所見ヲ辨スヘシ抑發議者及贊成者ハ我天皇陛下ハ天日ニ均シクシテ吾儕恩惠ハ得テ仰クヘキモ之ニ近ツクヘカラスト云ヘル主義ヨリ出テ其精神ハ太タ嘉尙スヘシ說ノ如ク我聖天子ハ

神代以來萬世一系ノ帝阼ヲ踐ミ玉ヒタル尊體ニシテ之ヲ我史乘ニ徵スルニ天日嗣ノ御子トアリ是レ吾儕ノ以テ天子ト尊崇シ奉ル所以ナリ故ニ維新前ハ我聖天子ハ深ク九重ノ内ニ潛居シ玉ヒ人民ハ之ヲ神トシ尊ヒ奉リ以テ近クヘカラスト爲シタリ帝ニ聖天子ヲ以テ神トシ尊ヒタルノミナラス之ヲ奉侍スルヲ得ル公卿ヲ稱シテ月卿雲客ト爲シ以テ非凡人ト尊ヒタリ那ノ維新ノ初メ遷都ノ時ハ本官四等官ナリシカ當時直衣ヲ着シテ道途ニ匍匐シタルモ亦仰キ視ルヘカラストシタルニ由テナリ然ルニ維新來廣ク各國ト交際ヲ開カレ政事文物モ頗ル面目ヲ改メ那ノ拜謁ノ如キモ前ニハ聖天子高御座ニ在マシ吾儕廟堂ニ匍匐シタリシモ近來ハ立禮ト變シ屢拜謁ヲ得ルニ至レリ那ノ外國ニ賜ハル文書ノ如キモ前ニハ大日本國天

皇ト書シタルニ本官嘗テ欽差全權大臣ノ差副トシテ清國ト條約取  
 結ノ爲メ彼國ヘ至リタル時彼ハ此天皇ナル文字ニ就キ異議ヲ唱ヘ  
 本官等頗ル窮シタルコトアリテ爾來舊慣ヲ一新シ日本國皇帝ト記  
 ルスコト、ナレリ時勢ノ變遷復タ止ヲ得サルナリ却說昨日ハ我聖  
 天子ハ九重ノ中ニ在マシ人民ハ仰キ視ルヘカラスト爲シタル慣習  
 ナリシモ今日ハ華族等ニハ屢々拜謁ヲ許サル、ニ至レリ且法律上  
 華士族平民共一般其權利ニ於テ不同ナキ者ト爲リ加之吾濟ノ請願  
 ヲモ天聽ニ達スルヲ得ルノ法律ヲ作ラル、時勢ナレハ士族平民ト  
 雖モ亦且引謁ヲ乞フヲ得ヘシト考フル者ナキヲ期セス是レ保守主  
 義ヨリ云ハ、眞ニ不敬ト爲スヘキモ時勢此ニ達シタル以上ハ立法  
 者ハ之ニ應スルノ法ヲ制セサルヘカラス即チ本官等本條ヲ存セサ

ルヘカラスト爲ス所以ニシテ恰モ番外二番ノ論說ノ如ク今日ニ在  
 テハ是レ或ハ無用ナルニ似タレトモ之ヲ削レハ遠キヲ出スシテ窮  
 スルコトアルハ本官ノ斷シテ疑ハサル所ナリ或ハ云ン引謁ヲ乞フヘ  
 カラストアレハ却テ乞フヲ知り通り拔無用トアレハ其通路アルヲ  
 知リテ却テ之ヲ通過スル者アルヘシト其レ然ラン然レトモ其明文  
 アリ其禁牌アレハ則チ以テ之ヲ制スルヲ得ヘシ猶ホ那ノ道路ノ修  
 繕ニ際シ通行禁止ノ制札ヲ掲ケタルニ之ヲ犯ス者アレハ警察官ハ  
 之ヲ制シ時トシテハ違警罪ニ處スルモ亦得ヘシト雖モ之ナクハ之  
 ヲ如何トモスル能ハサルカ如キナリ看ヨ聖上ニ對シテ不敬ノ所爲  
 アル者ノ如キハ固ヨリアルヘカラサルノ理ニシテ且萬々之ナキヲ  
 希望スルモ奈何セン數千萬人中聖上ノ尊影ヲ破ルカ如キ者アル秋

ナレハ本條ハ必ラス存セサルヘカラサルナリ

○十四番渡邊清

本官ハ前會以來本條ノ存廢如何ニ就キ熟考シタルニ之ヲ存スルハ中心今ニ至テ尙ホ安セサルヲ以テ更ニ二十番ニ左祖ス抑現問題ハ畏クモ我皇室ニ關係ヲ有スル者ナレハ之ヲ論スルモ亦恐レアリト雖モ動議者及反對論者ニ在テモ均シク皇室ノ尊榮ヲ主眼トシテ辨スルニ外ナラス爰ニ本官ハ以爲ラク實ニ無上無限ノ大權ヲ有スル聖天子ノ此帝國ヲ治メ玉フニ此ノ如キ明文ヲ掲タルハ太々切迫ヲ示スニ似テ却テ儀仗ニ逼近シ又ハ引謁ヲ乞フノ徒ヲ喚起スルノ恐レナキ能ハスト論者ハ此明文ナクシハ將來儀仗ニ逼近シ若クハ引謁ヲ乞フ者アルモ之ヲ制スル能ハスト辨スレトモ既ニ本案ハ請願ノ順序ヲ掲ケ又其第十六條ニ於テ順序ニ悖リタル請

願ハ受理セサルヲ示シタレハ請願人ハ必ス之ニ依ラサルヘカラス若シ然ラスシテ儀仗ニ逼近シ又ハ引謁ヲ乞フ者アレハ本規則アルヲ以テ之ヲ諭スヘシ尙ホ且之ヲ聞カサレハ不敬ノ所爲トシテ刑法ニ依テ處斷スルハ固ヨリ其處ナリ又某議官ハ番外二番ノ論辨中刑法引用ノ意ニ就キ釋義ニ類スルノ說ヲ爲シテ刑法ニ照シ處斷スルヲ得ス云々ト論セリ是レ蓋シ本條ナクハ儀仗ニ逼近シ又ハ引謁ヲ乞フ者ヲ罰スル能ハスト爲スニ在ルヘキモ此點ニ至テハ本條ヲ存スルモ同シク唯儀仗ニ逼近シタルノミヲ以テ不敬トシテ罰スル能ハス唯引謁ヲ乞ヒタルノミヲ以テモ亦然リ妄リニ迫リテ之ヲ制スルモ猶ホ聞カサルカ如キ者アリテ始メテ之ヲ不敬ト爲スヘキノミ然ラハ之ヲ存スルモ益ナク止々却テ人ヲシテ儀仗ニ逼近シ若ク

ハ引謁ヲ乞フノ意想ヲ喚起セシムルノ恐レアルノミ況ヤ三番ノ論  
 スル如ク此ノ如キ明文アレハ之ニ由テ聖天子ニ引謁ヲ乞フヲ得サ  
 ルモ大臣又ハ各省卿ニ謁ヲ乞フハ許ス所ナリト考フルカ如キ者ナ  
 キヲ期セサルヲヤ是レ法ヲ弄スル近來ノ弊風ナルニ由テナリ即チ  
 之ヲ削ルニ如カサルナリ

○二十番<sup>三浦安</sup> 本官ハ現問題ノ發議者タルヲ以テ幸ニ今一回ノ發言  
 ヲ得ルニ依リ爰ニ番外二番ノ駁擊中意外ノ論說ト考フル者ヲ擧テ  
 之ヲ辨スヘシ番外二番ハ府縣會規則ノ議案等ノ事ヲ援テ言ヲ左右  
 シテ巧ニ本條ノ存スヘキヲ說キ又佛國王路易十六世及普國王維廉  
 ノ事蹟ヲ引テ本條ノ削ルヘカラサル理由ト爲シタレトモ是レ常ト  
 變トヲ混同視シタル說ニシテ彼二王ノ事蹟ノ如キハ皆變ナリ而シ

テ請願規則ヲ設クルハ是レ常ナリ即チ本規則ハ請願者ヲ待ツノ法  
 ニシテ之ヲ設クルハ能ク請願者ノ意ヲ貫徹セシメ以テ他日ノ變ナ  
 カラシムルニ在リ其レ然リ常ハ以テ平穩ナラシムルカ爲メ設クル  
 者ナレハ彼非常ノ例ヲ以テ此ニ比シテ論スルハ取ルニ足ラス又尙  
 三年ヲ經スシテ續々儀仗ニ逼近シ若クハ引謁ヲ乞フ者アルヘシト  
 シテ今日之ニ備フルカ如キ目的ナランニハ本案ハ全ク設クルヲ要  
 セサルナリ

○三十四番<sup>長岡護美</sup> 本官ノ二十番ヲ賛成シタル旨趣ヲ辨セン大約セハ  
 本官ハ二十番ト同シク聖天子ノ威嚴ヲ萬世不朽ニ傳フルヲ欲シテ  
 ナリ其理由ハ原來引謁ヲ乞フ者アランニ之ヲ許スト否トハ實ハ聖  
 天子ノ特權ニ販スヘキ者ナレハ之ヲ掲クルハ幾分カ行政ノ特權ニ

害ナキ能ハス而シテ之ヲ削ルモ皇室ニ對スル不敬ノ罪ハ刑法第二編ニ燦然明掲シタルヲ以テ彼ニ依テ論スヘケレハ毫モ支障ナシ反對論者ノ旨趣ハ之ヲ削ラハ將來如何ト顧慮スルニ在レトモ若シ強テ引謁ヲ乞フカ如キ者ハ則チ不敬ノ罪ニ問フテ可ナリ又萬一異日弊害ヲ生スル如キコアラシニハ其時ニ當リ斷然之カ禁止ノ令ヲ發スルモ決シテ妨ケナシトス今日之ヲ掲ケルハ杞憂ナルノミナラス右陳ル如ク聖天子ノ特權内ニ闖入スルヲ恐ル、ナリ

○番二番井上 更ニ一回ノ辨明ヲ要セントス

○議長 内閣委員モ議官ト同シク第三讀會ニハ二回ノ發言ヲ許サレサル成規ナレハ特別ノ建議ニ非サル以上ハ發言スル勿レ

○番二番井上 諾

○議長 發議盡キタルヲ以テ決ヲ取シ二十番ノ修正說ニ同意者ハ起

立スヘシ

○起立者十人

○議長 多數ナルヲ以テ二十番ノ修正說ニ決シ次案ニ移ルヘシ

○書記官森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第十八條 條規ニ違ヒ受理セラレサルノ請願ヲ以テ強テ受理ヲ請ヒ又ハ前條ノ場合ニ於テ警察官儀衛官ノ說諭ニ從ハサル者ハ十日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス其連名請願スル者ハ情ヲ知ラサル者ヲ除ク外各人均ク罪ヲ論ス其發起人ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス若シ請願人ノ外教唆者アルトキハ發起人ト同ク罪ヲ論ス其嘯聚ニ涉ル者ハ刑法ニ依テ處分ス



○二十番 三浦安 幸ニ前條ニ係ル本官ノ削除説可決シタル以上ハ過刻豫陳セシ如ク本條中「又ハ前條ノ場合ニ於テ警察官儀衛官ノ」ノ十七字ヲ削リテ「云々強テ受理ヲ請ヒ説諭ニ從ハサル者ハ云々」ト連續セシメ本條ヲ第十七條トシ以下順次其條名ヲ修正スルヲ可トス蓋シ前條ノ削除ニ決シタル以上勢ヒ此ノ如ク修正セサルヘカラサルナリ

○十五番 伊丹重賢 賛成

○三十四番 長岡護美 賛成

○三十三番 林友幸 賛成

○二十八番 四條隆調 賛成

○二十一番 鍋島直大 賛成

○議長 二十番ノ修正説ハ成規ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○外番二番 井上毅 前條既ニ削除ニ決シタル以上ハ本修正ハ已ヲ得サレ

トモ本員ハ現問題ニテハ未タ少シク盡クサル所アリト考フルニ依テ之ヲ辨セン而シテ内閣委員ハ修正説ヲ提出スル能ハサルヲ以テ現問題ノ發議者タル二十番ニシテ本員ノ説ヲ可トセハ之ヲ採リ自己ノ説トシテ更ニ提出セラレンコトヲ望ム抑現問題ハ「云々強テ受理ヲ請ヒ説諭ニ從ハサル云々」トシ又ハ以下ノ十七字ヲ削除セント云フニ在レトモ此ノ如クセハ説諭ハ請願ヲ受ケタル者ノ義務ト爲ルヘシ然レトモ強テ受理ヲ請フハ則チ強訴ナリ此強訴ニ對シテ猶ホ行政官ハ説諭スヘキ義務ヲ負フノ理アルヲナシ畢竟此説諭云々ハ前條ニ由テ起ル者ニシテ既ニ彼ヲ刪リタル以上ハ此ニ無用ナ

レハ本條中又ハ以下ノ二十四字ヲ除キ「強テ受理ヲ請ヒ」ノ「ヒ」ヲフ  
ニ改メ「云々強テ受理ヲ請フ者ハ十一日以上一年以下云々」ト修正  
セハ則チ可ナラン幸ニ此ノ如ク修正ナランコトヲ希望ス

○二十番<sup>三浦安</sup> 目下番外二番ノ注意ニ依リ本官ノ修正説未タ盡クサ  
サルヲ知レリ然レトモ前説ハ既ニ議場ノ問題ト爲リタル以上ハ最  
早動カスヘカラサル乎

○議長 二十番ニ告ク一旦議場ノ問題ト爲ルモ發議者ヨリ更ニ其文  
字等ヲ變更セント欲スル時ハ其決議ヲ俟タス其所以ヲ陳述シ議場  
ノ許可ヲ得ハ前説ヲ改ムルモ亦得テ能ハサルニ非ルナリ

○二十番<sup>三浦安</sup> 番外二番ノ注意ノ如ク説諭云々ノ文字ハ削ラサルヘ  
カラサルヲ以テ前説ヲ改メ更ニ「云々強テ受理ヲ請フ者ハ十一日以

上一年以下云々」ト爲ス幸ニ議場ノ許可ヲ得テ此ノ如クナランコトヲ  
望ム

○議長 二十番ヨリ前修正説變更ノ請求アリ然ルニ該修正説ハ既ニ  
議場ノ問題トナリタル者ナレハ之ヲ衆議ニ決セン二十番ノ請求ヲ  
許容スルニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十人

○議長 多數ナルヲ以テ二十番ノ請求ヲ許ス

○二十番<sup>三浦安</sup> 幸ニ議場ノ許可ヲ得タル以上ハ爰ニ改メテ修正説ヲ  
提出スヘシ

○議長 二十番ニ告ク既ニ議場ノ許可ヲ得タル以上ハ最早再陳スル  
ヲ要セサルナリ

○十四番 渡邊清 二十番ニ同意ス

○五番 鍋島幹 二十番ニ同意ス

○議長 發議盡キタルヲ以テ決ヲ取シ二十番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十一人

○議長 多數ナルヲ以テ二十番ノ修正説ニ決シ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第十八條 請願人官吏ニ對シ抗論シ喧擾ニ涉ル者ハ十一日以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

其侮辱ニ涉ル者ハ刑法ニ依テ處分ス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取シ本案ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十六人

○議長 多數ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第十九條 請願書ハ新聞紙其他ノ文書ヲ以テ公行スルコトヲ許サス犯ス者ハ罪前條第一項ニ同シ

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取シ本案ニ同意者ハ起立スヘシ  
全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第二十條 請願ニ由リ人ヲ誣告スル者ハ刑法ニ依テ處分ス  
右奉 勅旨布告候事

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立スヘシ

全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ此ニ第三讀會ヲ畢ル而シテ本會ニ在テハ止々原案第十七十八兩條ノ修正ニ過キサリシニ依リ例ニ循ヒ之ヲ以テ確定決議會ト爲スニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十三人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決シ例ニ依リ修正ノ理由ヲ具シテ上奏スヘシ散會セヨ

午前第十一時五十分閉場

元老院會議筆記明治十五年七月二十九日

○第三百四十號議案 半圓以下ノ損傷紙幣交換ノ儀 第一第二及第三讀會

議長 佐野常民

出席議員

- |     |     |    |
|-----|-----|----|
| 三番  | 柴原  | 和  |
| 五番  | 鍋島  | 幹  |
| 六番  | 箕作  | 麟祥 |
| 八番  | 稅所  | 篤  |
| 十二番 | 大久保 | 一翁 |
| 十三番 | 本田  | 親雄 |
| 十四番 | 渡邊  | 清  |

- 十五番 伊丹 重賢
- 十六番 神田 孝平
- 十七番 楠本 正隆
- 十八番 東久世通禧
- 十九番 鍋島 直彬
- 二十番 三浦 安
- 二十三番 岩下 方平
- 二十七番 伊集院兼寛
- 二十八番 四條 隆謨
- 三十一番 西 周
- 三十三番 林 友幸

- 三十四番 長岡 護美
- 三十五番 渡邊 洪基
- 三十六番 津田 眞道
- 内閣委員一番 山尾 庸三
- 内閣委員二番 参事院議官補男谷 忠友
- 内閣委員三番 参事院議官補中山寛六郎

午前第九時三十分開場

○議長 第三百四十號議案第一讀會ヲ開ク書記官朗讀ノ後例ニ遵ヒ

發議スヘシ

書記官森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

布告案

半圓以下ノ損傷紙幣交換ノ爲メ五拾錢貳拾錢ノ紙幣ヲ改造シ漸次交換候條當分ノ内在來ノ紙幣ト取交通用スヘシ

但本文紙幣見本ハ大藏省ヨリ各府縣ヘ下ケ渡スヘシ

右奉 勅旨布告候事

○番二番男谷 外 忠友 例ニ遵ヒ本案制定ノ理由ヲ陳ン抑本案ノ大藏省上申

ニ成ルハ各位モ既ニ知ル所ナラン顧フニ明治十年西南賊徒征討ノ際莫大ノ臨時費用ヲ支辨センカ爲メニ紙幣二千七百萬圓ヲ増發シ從ツテ目今流通スル半圓二十錢十錢三種紙幣ノ高二千七百十萬餘圓ハ同十一年ヨリ向フ十五年間ニ銀銅貨ヲ以テ漸次交換スル旨ヲ布告シ以來半圓以下ノ小紙幣ハ之ヲ製造セサルコト、ナレリ然ルニ半圓以下ノ小紙幣ハ流通便利受授繁劇ニシテ特ニ細民ノ需用多

ク隨テ毀損モ亦多ク若シ之ヲシテ製出セシメサルニ至ラハ民間融通ヲ止メ難澁甚シキヨリ止ムヲ得ス去年三月日耳曼製ノ原版ヲ以テ王子製ノ紙ヲ用ヒ十錢紙幣五百萬圓ヲ製造セリ即今民間ニ散見スル所ノ新十錢紙幣是ナリ又現今ノ半圓二十錢十錢ノ紙幣ハ異種同紙同幅ニシテ其金員ノ字樣等ヲ異ニセサルヨリ或八十錢ヲ二十錢ニ改描スルノ弊アリ然ノミナラス紙質破裂シ易キノ憂アルヲ以テ更ニ各種其制ヲ異ニシ改描ノ弊ナク損傷ノ憂ナカランコトヲ欲シ乃チ見本ノ如ク五拾錢紙幣一千萬圓貳拾錢紙幣一千萬圓ヲ製造シ以テ現在流通ノ千八百九十六萬九千圓餘ノ交換豫備ニ充テント欲スルナリ大意此ノ如シ請フ之ヲ諒セヨ

○三番柴原 和 大藏省ヨリ十四年三月政府ニ伺出タル書面ヲ閱讀スル

ニ實ニ本案ノ必要ナルヲ知ルナリ然レトモ獨リ怪ムモノハ本案冒頭ニ「半圓以下」トシテ二十錢十錢モ皆此中ニ包含スヘキ文意ナルニ其下ニ至リ五拾錢貳拾錢ノ紙幣トアルヲ見レハ亦十錢ハ之ニ關セサルモノナリ是レ果シテ交換セント欲スルモ能ハサルニ因テ然ルカ然レトモ五百萬圓ノ十錢紙幣ハ既ニ新造セリト云フヲ以テ見レハ此五百萬圓ハ未タ發布セス全ク大藏ニアルニヨリ則チ之ヲ以テ該札ヲ交換セント欲スルニ在ル乎其意味明瞭ナル能ハス又當分ノ内「トアルハ只便宜ニ從フノ謂乎將タ損傷セサルモ舊ヲ厭ヒ新ヲ喜フノ情ヨリ交換ヲ請ハ、之ヲ許スノ意乎抑モ從來流通ノ紙幣跡ヲ絶ツニ至レハ斷然月日ヲ限り交換ノ布告ヲ爲スノ意乎請フ明辨セヨ

○番二番男谷忠友

大藏卿ノ意見ハ半圓二十錢十錢共ニ之ヲ交換スルニ

在ルヘシ然ルニ當時只紙質ヲ改メ五百萬圓ノ十錢紙幣ヲ發行セシハ其原版ノ改造ニ暇ナカリシカ故ナラン今ヤ此五百萬圓ヲ以テ彼交換ニ充テハ恐ラクハ現場流通ニ差支ナカルヘシ既ニ差支ナクハ單ニ半圓二十錢ヲ改造セハ足レリトスルニ在ルナリ又「當分ノ内」トハ一時ニ交換スルコト能ハサルヲ以テ然ルナリ彼ノ郵便切手等ノ改正ニ於ルモ亦然リ而シテ爾後如何ノ布告ヲ爲ス等ノ問ニ至テハ本官之ニ答フル所ヲ知ラサルナリ

○六番箕作麟祥

本官モ本案ノ必要ナルヲ知り之ヲ賛成スト雖モ亦一ノ疑問アリ即チ「半圓以下」トアレハ「以下」ノ字面中ニ八十錢ヲ含蓄スルハ當然ナルヘキニ内閣委員ハ然ラスト云フカ如シ確答ヲ乞フ

○外二番男谷忠友 「半圓以下」トアレハ十錢ヲ含ムハ云ハスシテ知ル所ナリ但十錢紙幣ハ現ニ五百萬圓アリテ交換ニ支障ナキニヨリ今之ヲ改造セサルノミ但參事院ニ於テモ既ニ六番所問ノ如キ説ナキニアラサリシ然レトモ終ニ本案ノ如ク決セシハ爾セサルトキハ或ハ十錢紙幣二枚ヲ携ヘ至リテ二十錢紙幣一枚ト交換セント欲スルモ爲スヲ得サルヤノ嫌アルニ由テナリ要スルニ半圓以下ハ三種共ニ之ヲ交換スルノ精神ニ外ナラサルモ其改造ハ半圓二十錢ニ止メ十錢ハ原版ノモノニ由ルノミ若シ十錢紙幣ニシテ文字ヲ改描シ或ハ贋造スル等ノ弊害ヲ見ルニ至レハ直ニ之ヲ改造スルコトアルヘシ

○三番柴原和 紙幣ノ損傷ヲ問ハス人民ノ好ム所ニ從ツテ交換ヲ乞ハ、之ヲ許容スヘキノ意ナリヤ果シテ然ラハ五百萬圓中ノ十錢紙幣

ヨリモ改造ノ貳拾錢紙幣ヲ好ンテ交換ヲ乞ハ、政府ハ之ヲ拒絕セサルナルヘシ知ラス果シテ然リヤ

○外二番男谷忠友 素ヨリ損傷ノ如何ヲ問ハス之ヲ交換スルノ精神ナリト雖モ先ツ姑ク損傷ノ分ヨリ便宜之ヲ始ムルニアルナリ其異種同種交換ノ如キモ即チ大紙幣ヲ好マハ大紙幣又小紙幣ヲ好マハ小紙幣或ハ大小混淆シテ交換スル等ノ事アルヘシ是等ハ皆地方ノ便宜ニ應シ緩急宜シキニ從フヘキナリ

○十四番渡邊清 本官ノ本案ヲ解スルヤ三番六番ニ異ナリ即チ本官ハ以爲ク此半圓二十錢ノ改造ハ從來改描ノ弊アルニ由ル其十錢ヲ改製セサルハ此弊ナキニ由テナルヘシト又以爲ク十錢紙幣モ半圓二十錢ト同ク交換ノ列ニアルナリト此解釋果シテ誤ラサルヤ否敢テ



内閣委員ニ質ス

○六番

麟作  
祥

本官モ亦解釋スル所ヲ述ヘン蓋シ法律ハ文章上ヲ以テ理解スル者タレハ文章外ノ意味ハ如何ナル智者ト雖モ之ヲ理解スル能ハサル者ナリ本案ハ即チ半圓以下ノ五拾錢貳拾錢ト命名サレタル者ヲ改造シテ當分ノ内取交通用ストアレハ十錢札ノ自然廢止ニ歸スルハ疑ヲ容ルヘキニアラス若シ夫レ否十錢札モ半圓以下ニ含蓄スト云ハ、明ニ之ヲ掲ケサルヘカラス到底本官ハ十四番ノ如ク奇巧ナル解釋ヲナスコト能ハサルナリ思フニ十錢紙幣ハ日用ノ便利欠クヘカラサル者ナルニ若シ一朝之ヲ廢止セハタトヘ終ニ銀貨ノ製造アリトスルモ現在人力車ニ乗ル等ノ事ニ至テモ不便云フヘカラサラン

○三十五番

渡邊  
洪基

本官ハ本案ニテ可ナラントス惟フニ日耳曼製ハ紙質脆弱ニシテ損傷シ易シ去年製造セシ五百萬圓ノ十錢紙幣ノ如キ其形容ハ従前ノ分ト同シキモ紙質ハ之ニ異ニシテ其堅韌ナルコト恰モ今改造セントスル所ノ五拾錢貳拾錢ト同シキ者ナレハ更ニ改造ヲ要セサルナルヘシ又損傷スル毎ニ改造セサルヘカラサルノ理ナシ就テハ半圓以下ト云ヘハ十錢モ含蓄スルモ今改造セサルニ由テ之ヲ布告セサルノミ本官ノ解釋乃チ此ノ如シ或ハ其誤解アルヲ保セサレトモ終ニ疑點ナキ法案ナリトス

○十四番

渡邊  
清

三十五番モ本官ト同一ノ解ヲナセリ本官モ當初ハ稍疑ヲ來セシモ熟考スルニ十錢紙幣ヲ改造セサレハ特ニ之カ布告ヲ要セス此他ハ形ヲ變シテ交換セントスルニヨリ此ニ布告ヲ要スル

ノミ本案ノ如クンハ或八十錢紙幣ヲ交換スル能ハサルヤノ嫌アルニ似タレトモ是改造セサルカ故ニ布告ヲ要セサルノミニシテ自カヲ其交換スルヲ得ルモノナリ

○番二 男 谷 外 忠 友 原案ノ趣旨ハ三十五番十四番ノ解ノ如シ蓋シ半圓以下ノ字ナケレハ十錢紙幣交換ニ支障アルナリ六番ハ原案ノ如クン八十錢紙幣ハ自然消滅スルニ至ルト論スレトモ十四年三月大藏卿上申書ニ詳記スル如ク現ニ五百萬圓ノ新造十錢紙幣アルニヨリ之ヲ以テ交換スルヲ得ルナリ

○三 番 柴 原 和 半圓二十錢ノ紙幣ヲ改造スト云ヘハ十錢紙幣ハ自然ニ廢止ニ屬スルノ概アルナリ去年製造ノ五百萬圓ハ姑ク之ヲ措キ其前ニ製造セシ十錢紙幣モアルヘシ之ヲ交換スルハ乃チ去年ノ五百

萬圓中ヨリスル乎人民若シ十錢紙幣ヲ以テ改造ノ貳拾錢紙幣ト交換センコトヲ乞ハ、政府ハ何ノ辭カ之ヲ拒絕スルヲ得ル乎人民ノ惑ヒ知ルヘキナリ

○番二 男 谷 外 忠 友 當初十錢紙幣ハ七百萬圓ナリシヲ以テ今五百萬圓ニテハ二百萬圓ノ差ヲ生シテ交換ニ差支アル如クナレトモ大藏卿ハ銀貨ヲ以テ之ヲ補充スルノ意見ナレハ毫モ支障アルコトナカルヘシ又十錢紙幣ヲ以テ貳拾錢紙幣ト交換セント望ムノ人民アルニ方リテ政府ハ拒絕スル能ハサルヘシトノ間ハ原案文章ヲ不明トスルニ由ルナルヘシ若シ原案文章不明ナリトセハ修正スル可ナランノミ要スルニ三番ノ間ハ本官未タ其要領ヲ得ル能ハス願クハ再陳セシコトヲ望ム

○三番柴原和 本官ノ問フ所ハ五拾錢ノ紙幣ヲ得ント欲スルカ爲メニ十錢紙幣五枚ヲ出サハ猶之ヲ交換スルヲ得ルヤ否ヤト云フニアルナリ

○外二番男谷忠友 了解セリ惟フニ三番ハ取扱上ト布告トヲ混同視セリ本案ハ單ニ交換ノ事ヲ云フ者ナリ而シテ十錢紙幣ノ交換ハ之ヲ去年製造セシ五百萬圓ニ仰クナリ地方ニヨリテハ便宜十錢ニ代フルニ五拾錢ヲ以テスルカ如キ事アリト雖モ是等ハ皆取扱上ニ關スルモノナレハ敢テ布告案ニ要ナシトス

○二十番三浦安 番外二番ハ既ニ半圓以下ト明文ヲ掲ケ而シテ其十錢ノ字ナキニヨリ之ヲ爲ス如何ノ問ニ答フルニ去年製造ノ五百萬圓アリ云々ト云ヘリ敢テ問フ此五百萬圓ノ民間ニ下ラスシテ現ニ大

藏ニ殘レル額ハ幾何ソヤ

○外二番男谷忠友 議長ヨリ各位ニ配布サレタル十四年三月大藏卿ノ上申書ニ詳ナリ知ラス二十番ノ問フ所ハ現在十錢紙幣ノ流通額ナル乎

○二十番三浦安 否去年製造セシ所ノ五百萬圓中ノ殘額ナリ

○外二番男谷忠友 確答スルコト能ハサレトモ去年十二月マテニ製造セシ額四百萬圓弱ニシテ其發行ハ漸ク百七十萬圓内外ナラン爾後ノ發行額ハ之ヲ知ラス

○五番鍋島幹 交換ノ手續ハ半圓十枚ヲ出セハ五圓一枚ヲ授クルヲ得ルヤ又ハ半圓ナラハ必ス半圓ヲ以テ受授スルヤ

○外二番男谷忠友 交換ハ人民ト大藏省ト直接ニ之ヲ爲スニアラス大藏

ノ信認スル三井銀行等ヨリ大藏ノ出納局ニ交換紙幣ヲ出シ出納局ノ都合ニヨリ紙幣ノ大小ヲ定メテ之ヲ交付シ人民ハ復此銀行トノ協議ヲ以テ其交換ヲ爲スノ手續ナリ要スルニ總額ノ權衡ニ由テ大紙幣ノ差アルヘキナリ

○十五番 伊丹重賢 番外二番ハ半圓以下ノ文字中ニ十錢紙幣ヲ含ムト辨

スレトモ十錢紙幣ノ字面ナキトキハ終ニ五拾錢貳拾錢ノ外交換ヲ望ムヘカラサルカ如シ第二讀會ノ地ヲ爲スタメニ明確ノ答辨ヲ乞フ

○番外二番 男谷忠友 半圓ヲ以テ十錢ニ換ヘ貳拾錢ヲ以テ十錢ニ換フルヲ

得ルハ當然ナリ必ス十錢ナレハ十錢ナラサルヘカラサルノ理由ナキナリ

○三十六番 津田眞道 本案ノ解釋ニ容易ナルハ三十五番ノ陳述スルカ如クナルニ賢明ナル各位ニシテ了解スルコト能ハスト云フハ甚タ疑

フヘキナリ今日ハ空氣爽涼ナレハ各位ノ精神モ亦マサニ爽快ナルヘキニ懊惱スルハ何ソヤ本官ハ大意之ヲ可トシ直ニ第一讀會ヲ了ラシコトヲ望ム

○議長 大体論了ラハ本會ヲ了ルヘシト雖モ本案ハ全國ノ利害ニ關

シ世人ノ最モ注目スル所ナレハ充分ニ各位討論審議センコトヲ望ム

○議長 發議ナキニヨリ茲ニ第一讀會ヲ了ル

○番外二番 男谷忠友 第一讀會了ラハ直ニ第二三讀會ヲ開カレンコトヲ望ム

○議長 内閣委員ノ請求ニ應スヘシト思考スル者ハ起立スヘシ

起立者十九人

○議長 多數ナルヲ以テ内閣委員ノ請求ニ應シ直ニ第二讀會ヲ開キ  
議案ノ朗讀ハ之ヲ省ク

○二十番 三浦安 修正セント欲ス第一讀會ニ種々ノ質問アリテ内閣委

員ノ答辨終ニ明了ヲ欠キシハ文章外ノ事ヲ云フニ由テナリ惟フニ  
本案ハ六番ノ陳述スル如ク文面上ニテハ決シテ大藏卿ノ意見ノ在  
ル所ヲ知ル能ハサルノミナラス政畧上ノ便宜ニ由テ十錢紙幣ヲ廢  
止ニ歸スルノ意ハ了然タリ縱令ヒ大藏省ニハ去年製造セシ十錢紙  
幣ノ發行殘額猶三百萬圓内外アリトスルモ人民豈之ヲ知ルヲ得ン  
ヤ要スルニ半圓二十錢ノ兩種ヲ改造スルハ其紙質ノ脆弱ト質造改

描ノ弊アルトニ由テナレハ冒頭半圓以下ノ「以下」ヲ削リ代フルニ

二十錢ノ字ヲ以テセハ可ナリトス而シテ三百萬圓内外ノ十錢紙幣  
若シ發行シ了リ殘ス所ナキニ至ラハ爾時更ニ布告ヲ發シテ可ナル  
ノミ豈今日ヨリ未來ヲ慮リテ原案ノ如キ曖昧手段ヲ用フルヲ爲ン  
ヤ

○六番 箕作麟祥 賛成ス本官輩ハ千思萬考スルモ終ニ字面外ノ意味ヲ解

得スル能ハス内閣委員ノ言ノ如ク從來ノ十錢紙幣ハ損傷シ易キヲ  
以テ堅韌ナル王子製紙ヲ以テ五百萬圓ヲ製造シテ交換ノ準備ニ充  
ツト云ハ、本案豈此ノ如ク強テ文字外ノ事ヲ解釋セシムルヲ要セ  
ンヤ

○十五番 伊丹重賢 賛成ス六番ノ言ノ如ク原案ニヨレハ終ニ十錢紙幣ヲ

廢止ニ歸スルノ看アリ大藏省ニ新製ノ五百萬圓アリト云フハ質問ニ由テ始メテ知了スル所ナリ

○議長 二十番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題トス

○外二番 男谷 忠友 參事院ニ於テモ現問題ト同一ノ議論アリシモ終ニ原

案ニ決セシハ「以下」ノ字ヲ削リ「二十錢」ノ字ヲ填スルトキ八十錢紙幣ヲ交換スルコト能ハサルニ至ルヲ以テナリ請フ熟慮シテ原案ニ決センコトヲ

○五番 鍋島 幹 問題ヲ賛成ス番外二番ハ紙幣交換ノ手續ヲ述ヘテ銀行

ト人民トノ協議ニ付シ大藏ハ直接ニ人民ト受授セスト云ヘリ其然ラシ然ルニ今二十錢半圓ト限レハ十錢ハ交換スルコト能ハサルノ嫌アリト云フハ當ラサルノ言ト云フヘシ蓋シ前者銀行ト人民トノ

協議ニ由ルト云ハ、後者モ亦然ルニアラスヤ

○三十五番 渡邊 洪基 歐洲各國ノ制度ニテハ縱令同形ノ紙幣ナルモ漫ニ

發行スルヲ得サルハ勿論舊ヲ去リテ新ニ就クトキハ固ヨリ其改ムヘキ額ト之ト引換ヘキ楮幣ト對稱シテ其引換期限ヲ定メ其數ヲ照シテ燒滅スルヲ法トシ又同形ノ紙幣タリトモ之ト異ナルコトナク皆議院ノ與議スル所ニシテ檢査院等ニ於テ之ヲ監督スル者トス本邦ニ於テハ未タ此事ナク本院ハ特リ其形ヲ議スルノミナレハ政府ハ元老院ノ議ヲ經テ發行シタルモノニテ是レ贋札ニハアラスト云フニ過ス故ニ本案ノ如キハ何レニテモ格別ノ關係ハアラサルモ苟モ法律ヲ以テ布告スル者ハ其實際行ハル、所ト其文意ト齟齬セサル様ニナスハセメテモノ事ナルヘシ今問題ノ如ク半圓貳拾錢ト爲ス

トキハ該兩紙幣ヲ新造シ舊來ノ半圓二十錢紙幣ト交換スルノ義ニシテ原案半圓以下トアル以下中ニ包蓄スル十錢紙幣ハ此中ヨリ取除ケラル、モノトナルナリ然ルニ實際ヲ聞ケハ十錢紙幣ハ紙質ヲ改メ舊來ノ形ニテ五百萬圓額ヲ新造シ目下世間ニ流通セル舊造ノ者乃チ日ニ損傷紙幣トナルヘキ五百萬圓ノ外既ニ該新造紙幣二百萬圓ヲ發行セリト云フ蓋シ近日吾輩カ囊裏ニ往々十錢紙幣ヲ見ルハ是ナルヘシ然ルニ彼紙質堅緻ナル五拾錢貳拾錢紙幣ト同壽命ナル新造十錢紙幣ノ殘額三百萬圓ヲ以テ現今流通ノ舊紙幣五百萬圓ノ内三百萬圓ト交換セハ殘餘二百萬圓ノ損札ハ何ヲ以テ之ヲ引換ヘントスルヤ論者云ク斯カル究屈ナルコトニアラス乃チ十錢札二枚ヲ出セハ新貳拾錢一片ヲ與ヘテ可ナリト是レ勢然ラサルヲ得サ

レハナリ然レトモ今ノ問題ノ如ク可決シ而シテ前ノ如キ取扱ヒヲ爲スハ其法律ノ明文ニ背クモノニシテ斯ノ如キハ當初ヨリ之ニ背クヘシトノ布告ヲ爲スニ均シ豈奇怪ナラスヤ之ニ反シ原案ノ如クシハ其体面ハ或ハ遂ニ十錢札ハ無クナルモノ、如ク見ユルモ是レ我制度上其紙幣發行ニ當リテ實額ヲ議シ而シテ之ヲ布告スルニ非スシテ只形ノミヲ法律上ニ制定スルモノナルカ故ニ其形サヘ變ラサレハ上文ノ如キ元ト五百萬圓ヲ限ルノ十錢札ニシテ何時カ七百萬圓ニ上ルモ別ニ法律ニ關係スルコトナキカ如キ制度ナルニヨリ是ノ如キ事ヲ作シ來ルコトニシテ亦止ムヲ得サルナリ故ニセメテ其法文ト實際ト相合スルダケニアリタキモノナルヲ以テ原案ノ如クセサルヲ得サルナリ

○三番柴原和 問題ヲ賛成ス反對論者ハ種々ノ論アレトモ大藏卿ノ上申書中ニ十三年ノ一ヶ年ニシテ損傷十錢紙幣ノ交換額四十七萬五千四百五十二圓五十錢トアレハ爾後既ニ七百萬圓ノ内五百萬圓ハ交換セシナルヘシ實際ヲ云ハ、半圓二十錢ノ紙幣ヲ以テ十錢紙幣ニ交換スルヲ得ヘキモ原案ノ如クスルトキハ人民ハ必ス疑ヲ生シテ十錢紙幣ハ既ニ廢止ニ屬セリトセン惟フニ細民ハ疑心ノ深キ者多キヲ以テ或ハ十錢紙幣將ニ廢止ニ歸セントストノ流言ヲ布キ相欺キ相信シ終ニ眞假ノ價格ヲナスニ至ルモ知ルヘカラス問題ノ如クシハ明々白々此疑ヒヲ生スルノ恐レアルコトナシ此ニ言ヲ止ムルニ方リ二十番ハ一ノ脫語アリト信スルニヨリ本官之ヲ補ハント欲ス即チ二十錢ノ二十ハ省畫ノ字ナリ是レ政府從來定ムル所ニシ

テ現行紙幣ニ此省畫ノ數字ヲ用ヒシハ偶マ誤マリシ者ナリ

○十七番

楠本正隆

本官ハ問題ヲ賛成ス原案ハ讀テ字ノ如クナルニ其辨明スル所文意ト自カラ迥別セリ蓋シ半圓以下ト云ヘ八十錢モ其中ニ含ムハ了然タルニ否十錢ハ之ヲ含マス別ニ製造ノ者アリ此ヲ以テ彼ヲ交換スヘシト云カ如キハ豈曖昧ナラスヤ是レ問題ヲ賛成セサラント欲スルヲ得サル所以ナリ

○三十六番

津田眞道

本官ハ第一讀會ニモ本案ノ解釋ニ易々タルヲ辨セリ看ヨ原案ニハ損傷ノ字アルニアラスヤ且十錢紙幣ヲ廢止スルノコトヲ云ハス特ニ其廢止セラレサルハ今日民間ニ散見スル新鮮ナル者ヲ見テモ知ルヘキナリ但シ問題ノ如キモ其意味ニ於テハ毫モ原案ニ異ナルコトナク而シテ兩案何レカ三千五百萬ノ生靈ヲシテ



一目了然タラシムルヤト問ハ、寧ろ問題ニ如クハナシト答ヘサルヲ得ス故ニ本官モ亦之ヲ賛成ス

○十四番 渡邊清

本官ハ問題ヲ不可トス元來誤解ハ之ヲ解ク輕シ實際ハ之ヲ辨スル重シ本官モ當初ハ原案ヲ見テ十錢紙幣ヲ廢止スル者ナリト解シタレトモ後其誤解ナルコトヲ曉レリ故ニ今問題ノ如クスルトキハ人民ノ願望ヲ遂ケシムル能ハサルニ至リ甚タ便利ヲ妨害スヘシ此便利ヲ妨害スルハ重ク彼誤解ヲ解クハ實ニ輕キナリ必ス原案ナラサルヘカラス

○番二番 男谷忠友

本案ヲ布告スルノ要ハ畢竟半圓二十錢ノ兩紙幣ヲ改造セシコトヲ知ラシムルニ在ルナリ論者ハ此ノ如クン八十錢紙幣ハ廢止ニ均シト云フト雖モ苟クモ貴重ナル通貨ヲ廢止スルニ方リ

一ノ布告ヲモナサス曖昧手段ヲ用ヒテ他ノ布告ニ便宜從屬セシムルカ如キコトアルヘケンヤ現問題ノ如クセ八十錢紙幣ノ交換ニ差支ヲ生シ且人民ニ於テモ却テ迷ヒヲ來スヘシ寧ろ「以下」ノ字ヲ存シテ意味ニ害ナカラシコトヲ望ム

○六番 箕作麟祥

反對論者モ誤解ハ輕シ實際ハ重シト云フノ言アルハ惟フニ原案ノ誤解シ易キヲ曉リシニヨルナラン既ニ五百萬圓ノ十錢紙幣ヲ新製セシモ是レ損傷アルニ由テナリ今半圓二十錢ヲ改造スルモ亦然リ然ルヲ「以下」ノ字ナキトキハ十錢紙幣ノ交換ニ迷フトハ何ノコトソヤ番外二番ノ言モ亦當ラスト云フヘシ

○十五番 伊丹重賢

某議官ハ原案ヲ分明ナリト云フニモ關ハラズ問題ヲ賛成セシハ改過不吝ニ由ルカ又某議官ハ當初十錢紙幣ヲ含蓄セス

ト思ヒシモ熟考シテ其然ラサルヲ曉レリト云フヲ以テ見レハ原案ハ疑惑シ易キニ相違ナキノ証ナリ就テハ實ヲ以テ實ヲ告クル問題ノ如クセハ更ニ一點ノ疑ナカルヘキヲ信ス問題可ナリ

○三十六番 津田真道

本官ハ敢テ過チヲ改ムルニアラス原案ニ勝ル一層ナルノ修正ナルヲ以テ賛成セシノミ番外二番ハ修正説ノ如クスレハ十錢紙幣ノ交換ニ支障アリト云フモ大藏省ハ便宜各銀行ノ請求ニ應スヘキ者ナルヲ以テ決シテ其支障アルコトナシ蓋シ紙幣ヲ發行スルモ大藏省ヲ置クモ人民ニ便センカ爲メニ外ナラス豈番外二番陳述スル如キ不便ヲナス爲メナランヤ故ニ以下トアルモ二十錢トスルモ其真意ハ同一轍ナリ

○三十四番 長岡護美

内閣委員ニ質ス三十六番ノ陳述中ニ以下トアルモ

二十錢トスルモ其意同シト云ヘリ本官ハ以爲ラク十錢紙幣ノ交換ヲナサルニハアラサレトモ其改造ハ半圓二十錢ノ二種ナリト果シテ然ルヤ

○番二番 男谷忠友

大藏卿八十錢紙幣モ異日改造スルノ意見アリト雖モ即今ハ半圓二十錢ニ止マルナリ

○三十五番 渡邊洪基

去年製造セシ十錢紙幣ノ殘額三百萬圓アルニヨリ交換ニ支障ナシト云フハ道理ナキニアラス然レトモ今該全額ノ内既ニ發行セシ二百萬圓ノ民間ニアル者モ悉皆十錢紙幣ト交換セシニハアラサルヘシ必ス半圓若クハ二十錢ヲ混淆セシヲ知ルナリ然ルヲ今半圓二十錢ト修正シテ以下ノ字ヲ削ルトキ八十錢紙幣ハ之ヲ交換スル能ハサルノ理ナリ若シ又法律ニ半圓二十錢ト明掲

シ而シテ十錢ヲ交換スルヲ得ルトナサハ人民ハ必ス恠訝ニ堪ヘサルヘシ彼西南戦争ニ際シ濃肉ノ五圓紙幣ヲ見テ人々皆之ヲ疑ヒシコトアルニアラスヤ要スルニ是レ制度上ヨリ來ル者ナレハ避クヘキニアラス原案文面上ヨリ云ハ、或ハ疑ヲ來タスノ恐レナキニアラサルモ寧ロ問題ノ如クスヘカラス

○十四番渡邊清 半圓二十錢ヲ改造スルハ畢竟贋造等ノ弊ヲ避ケ人民

ニ便センカ爲メナリ然ルヲ問題ノ如ク十錢札ニ限り改良ノ五拾錢貳拾錢ニ交換スルコト能ハシメサルハ不便ト云フヘシ

○六番箕作麟祥 半圓二十錢ヲ改造スルハ贋造等ノ弊アルニ由テナリト云フハ本官了解スルコト能ハス惟フニ此改造ハ損傷ヲ交換スルニアリテ贋造ヲ防クニアラス若シ贋造アルカ爲メニ改造ストナラハ

其損傷セサルモノモ亦交換スヘキナリ而シテ決シテ漸次ヲ待タス急劇交換ヲ要スヘキモノトス且贋造ノ事ヲ云ヘハ素ヨリ半圓以下ニ限ルヘカラス壹圓以上モ亦同シ到底是レ解スヘカラサルノ説ナリ又番外二番ハ貴重ノ通貨ヲ廢止セント欲セハ布告セサルヘカラスト辨スレトモ是亦人民ノ豫知セサルコトナリ要スルニ原案ノ如クンハ十錢紙幣ハ自然ニ廢止ノ姿トナルナリ

○三十五番渡邊洪基 本案ヲ布告スルハ改造ニ由テナリ贋造ハ與ル所ニアラス某官ノ贋造云ヤト云ヒシハ改造スル所以ノ理由ヲ説明スルニ付テノ注解ナリシナラン

○二十番三浦安 番外二番ノ答辨中ニ本案ノ精神ハ改造ニアリト云ヘリ果シテ現紙幣粗惡ナリトシテ改造セハ緩慢事ニ從ハス年月ヲ期

シテ之ヲ交換セサルヘカラス番外二番ノ言ハ交換ト損傷トヲ混同セリ蓋シ改造ノ爲メニ損傷ノ分ヲ交換スルトハ別事ナリ又交換上便宜云ヤノ論者アレトモ是ハ大藏省自カラ其局ニ當ルニアラス銀行之ニ當ル者ナレハ即チ其銀行ト人民トノ便宜ニ從ハ、可ナリトス

○十六番 神田孝平

本官ハ本案ニ惑フコトアリ即チ實際ニ支障ナシト云ハ、本案問題共ニ擇ハサルカ如シト雖モ熟考スレハ問題ノ可ナルヲ覺フ番外二番ハ交換スヘキ十錢紙幣ノ準備ハ大藏ニアリト雖モ未タ地方ニ普布セスト云ヘリ是實際ニ支障アリト云フ肯綮ニ中ラズ三十五番ハ問題ノ如クセハ十錢紙幣ヲ以テ十錢紙幣ニ交換スルヲ得テ貳拾錢若クハ五拾錢ニ交換スルヲ得サルニ至ルト云ヘリ果

シテ此論ノ如クンハ支障アルニ似タレトモ其支障ハ原案問題共ニ同一ナルヲ信ス又改造ノ五拾錢貳拾錢ノ紙幣一千萬圓宛ヲ以テ流通ノ半圓二十錢十錢ニ交換ストセハ改造紙幣ノ額流通紙幣ヨリ減スルヲ以テ必ス支障アルヘシ三十五番ノ所謂支障ハ兩者共ニ免ルヘカラサルナリ

○三十五番 渡邊洪基

本官ハ敢テ二千萬圓ヲ以テ他ノ二千五百萬圓ヲ交換スト云フ如キ不稽ノ論ヲナスニアラス現ニ流布スル所ノ半圓二十錢十錢紙幣ノ合計二千七百萬圓ヲ交換スルニ去年製造ノ十錢紙幣殘額三百萬圓ノ交換ヲ仰ク所ハ則チ五拾錢貳拾錢ニモ及ハサルヘカラサルニ問題ノ如クセハ十錢八十錢ノ外他ニ交換スヘキ途ナキニ至リ甚タ不都合ヲ生スト云フナリ

○議長 發議盡キタリト認ムルヲ以テ二十番ノ修正ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十二人

○議長 多數ナルヲ以テ二十番ノ修正ニ決シ茲ニ第二讀會ヲ了ル蓋シ本案ハ内閣委員ノ請求アリテ既ニ第三讀會ヲ開クニ決シタレトモ午後八戸籍規則ノ讀會ヲ開カサルヲ得サルニ由リ本案ノ第三讀會ハ來三十一日之ヲ開クヘシ

○外一番山尾 本案ハ素ト單簡ナルニ今至僅ノ修正アリシノミナレハ本日直ニ第三讀會ヲ開カンコトヲ望ム

○議長 番外一番ハ本院ノ修正ニ同意ヲ表スルニ由テ然ル乎

○外一番山尾 然リ

○議長 然ラハ前宣告ヲ廢止シ直ニ第三讀會ヲ開クヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

布告案

半圓二十錢ノ損傷紙幣交換ノ爲メ五拾錢貳拾錢ノ紙幣ヲ改造シ漸次交換候條當分ノ内在來ノ紙幣ト取交通用スヘシ

但本文紙幣見本ハ大藏省ヨリ各府縣ヘ下ケ渡スヘシ

右奉 勅旨布告候事

○議長 本案ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十五人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決シ第三讀會ヲ了ル決議ノ次第ハ例ニ遵ヒ上奏セン乃チ午餐ノ爲メ一旦散會シ午後八戸籍規則ノ讀會

ヲ開クヘシ散會セヨ

午後零時十分閉場

議立者十五人

○議決 本議ニ同意者ハ議立者ヘシテ之ヲ決スルニ付 議決者十五人  
○議決 本議ニ同意者ハ議立者ヘシテ之ヲ決スルニ付 議決者十五人  
○議決 本議ニ同意者ハ議立者ヘシテ之ヲ決スルニ付 議決者十五人  
○議決 本議ニ同意者ハ議立者ヘシテ之ヲ決スルニ付 議決者十五人  
○議決 本議ニ同意者ハ議立者ヘシテ之ヲ決スルニ付 議決者十五人  
○議決 本議ニ同意者ハ議立者ヘシテ之ヲ決スルニ付 議決者十五人  
○議決 本議ニ同意者ハ議立者ヘシテ之ヲ決スルニ付 議決者十五人  
○議決 本議ニ同意者ハ議立者ヘシテ之ヲ決スルニ付 議決者十五人  
○議決 本議ニ同意者ハ議立者ヘシテ之ヲ決スルニ付 議決者十五人  
○議決 本議ニ同意者ハ議立者ヘシテ之ヲ決スルニ付 議決者十五人

元老院會議筆記明治十五年八月四日

○第三百四十一號議案 戒嚴令第十四條第五項 第一第二及第三讀會  
末文ニ但書增加ノ儀

議長 佐野  
常民

出席議員

- 三番 柴原 和
- 五番 鍋島 幹
- 十二番 大久保一翁
- 十三番 本田 親雄
- 十四番 渡邊 清
- 十五番 伊丹 重賢
- 十六番 神田 孝平

- 十八番 東久世通禧
- 二十番 三浦 安
- 廿二番 河田 景與
- 廿四番 黒田 清綱
- 廿七番 伊集院兼寛
- 廿八番 四條 隆譚
- 廿九番 關口 隆吉
- 三十番 楠田 英世
- 卅一番 西 周
- 卅三番 林 友幸
- 卅五番 渡邊 洪基

内閣委員 番外一番 參事院議官補渡 正元

午前第九時五分開場

○議長 第三百四十一號議案ノ第一讀會ヲ開ク書記官朗讀ノ後例ニ  
遵ヒ發議スヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

其院議定上奏戒嚴令中左ノ但書ヲ増加更ニ其院再議ニ被付候事

明治十五年八月三日 太政大臣三條實美

元老院副議長佐野常民殿

戒嚴令第十四條第五項末文ニ

但賠償スルノ限ニアラス

○外一番 渡正元 本案ヲ再議ニ付セラレタル理由ヲ陳述セン過日當院

ニ於テ戒嚴令議定ノ際第二讀會ノ始ニ當リ全部付託修正委員撰定ノ建議アリテ之ニ決シ爾後其修正案ヲ議長ヨリ内閣ニ送付セラレタリ因テ内閣ニ於テ之ヲ閲見セシニ其第十四條第六項即チ舊第五項ニ「但賠償スルノ限ニアラス」トノ一句ヲ添加シタリ原案ノ趣旨モ是等ノ損害ハ素ヨリ賠償セサルニ外ナラサレトモ特ニ其明文ヲ掲ケサリシハ其事タル云ハスシテ明瞭ナリト爲ルニ在リシ然レトモ人文ノ進歩ニ從ヒ官民ノ間法律ノ明文ヲ爭フノ今日ニアリテハ之ヲ明掲スルノ必要ナルヲ以テ内閣ニ於テモ是等ノ修正ハ大ニ原案ノ精神ヲ鞏固ナラシメタル者トシテ之ヲ嘉納シタリシモ爾來當院ノ會議ニ於テ其但書ヲ删除シ上奏セラレタリ是レ甚タ惜ムヘキコトニシテ今般本案ノ再議ニ付セラレタル所以ナリ其他「賠償云々」ナ

ル明文ノナカルヘカラサル理由ハ過日戒嚴令議定ノ際各位ノ討議ニ詳カナルヲ以テ今茲ニ喋々セス要スルニ本案ハ嘗テ當院ヨリ内閣ニ送付ナリタル修正案中「賠償云々」ノ明文ヲ掲載スルノ意ヲ嘉納シテ成リタル者ナレハ之ヲ掲クル位地ノ如キハ必スシモ第五項ノ末文ニ限ルニ非サレハ各位幸ニ此意ヲ領シテ速ニ議決上奏アラシコトヲ希望ス

○十五番 伊丹重賢 本案ヲ再議ニ付セラレタル理由ハ番外一番ノ辨明ニテ詳カニ了解セリ本官ハ嘗テ戒嚴令議定ノ際全部付託修正委員ノ席末ニ列セシヲ以テ「賠償云々」ナル明文ノ有用ナル理由等ヲ議場ニ報告シタリキ然レトモ亦其明文ヲ舊第十四條第五項ノ但書ニ加フルハ不妥ナリト思考スルコトアルヲ以テ更ニ議官ノ資格ニ由テ之



ヲ删除シ別ニ第十五條ヲ設ケテ之ヲ明揭セントシテ其說ヲ提出シタルニ但書删除說ハ幸ニ可決シタレトモ第十五條新置ノ說ハ行ハレサリキ即チ本官ハ今又本案ニ對シテ聊カ修正ノ意見アルニ依リ第二讀會ヲ俟テ之ヲ提出スヘシ

出席

七番

海江田信義

同

卅六番

津田 眞道

○議長 發議盡キタルト認ルヲ以テ此ニ第一讀會ヲ畢ル即チ本案ハ昨日各位ニ報道セシ如ク至急議定ヲ要スル者ナルヲ以テ引續キ第二讀會ヲ開ク但朗讀ハ之ヲ畧スヘシ

○十五番 伊丹重賢

第一讀會ニ方リ端緒ヲ開キシ如ク聊カ修正說ヲ提出セン第十四條第五項ニ此但書ヲ附スルトキハ之カ反對ニテ其第二

項ノ軍需ニ供ス可キ民有諸物品ノ調査及時機ニ依リ其輸出禁止第三項ノ銃砲彈藥兵器火具其他危險ニ涉ル諸物品ノ時機ニ依リ押收等其他各項ヨリ生スル損害ハ賠償スルカ如キ嫌ヒナキニアラス是レ本官カ前會第十五條新置ノ修正說ヲ提出シタル所以ナルカ該說ハ同意者少數ニシテ消滅シタルヲ以テ今之ヲ改メテ本案ヲ修正シテ本條執行スルノ權ヲ有ス下ニ但其執行ヨリ生スル損害ハ要償スルコトヲ得スト爲ント欲ス斯ノ如クセハ本條中各項ヨリ生スル損害ハ總テ賠償セサルコト明瞭ニシテ内閣ノ旨趣モ亦能ク貫徹スヘキニ由テナリ賛成者ヲ得テ問題トナラハ幸甚

○十四番 渡邊清

本官ハ前會賠償云々ヲ明文ナキヲ可トシタレトモ内閣ニ於テ之ヲ緊要ト爲シテ再議ニ付セラレタル以上ハ之ヲ掲クル

モ其精神ニ至テハ兩者共ニ殊異ナキヲ以テ今改メテ之ヲ明掲スル  
ニ左袒ス然レトモ十五番ノ論スル如ク第五項ノ但書ト爲ス時ハ其  
他各項ヨリ生スル損害ハ賠償スルノ嫌アリ本官ハ嚮年某地方ニ在  
テ實際是等ノ事ニ關シテ頗ル困難ヲ極メタルコトアリ乃チ之ヲ  
掲クル以上ハ十五番修正說ノ如ク第十四條ノ末文ニ加ヘテ諸項ヲ  
包括セシムルヲ可トス且其文字モ原案ノ如ク「賠償ノ限ニアラス」ト  
爲スヨリ要償スルコトヲ得スト爲シ下ヨリ文ヲ立ル方穩當ニシテ  
活用ヲ得ヘシ此ノ如クナレハ戰爭ノ景況ニ由テ或ハ充分ノ恩典ヲ  
給與スル等ノコトニ於テモ亦便利ナルヘケレハナリ依テ之ヲ賛成  
ス

○二十七番 伊集院兼寛 賛成

○議長 十五番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○三番 柴原和 賛成ス過日戒嚴令議定ノ際全部付託修正委員ヨリ今回

下付案ノ如ク但書ヲ増加シ報告シタルニ該委員中之ヲ刪リテ別ニ  
一條ヲ加フルノ說ヲ提出シタル者アリ即チ本官ハ其削除ニ同意シ  
テ其一條ヲ設クルニ不同意ヲ唱ヘタリシニ幸ニ其說ノ如ク決定セ  
リ蓋シ本官輩ト雖モ固ヨリ賠償ヲ許スノ精神ニアラス是等ノコト  
ハ特ニ明掲セサルモ理ノ當ニ然ルヘキ者ナレハ之ヲ掲ルハ管ニ益  
ナキノミナラス却テ害アリトシタルニ由テナリ故ニ今本案ヲ議ス  
ルニ於テモ亦前日ト同感ナキ能ハサレトモ熟考スルニ現問題ノ如  
ク第十四條本文ノ但書ト爲シ且下ヨリ文ヲ立ル時ハ頗ル妥當ニシ  
テ却テ其明文アルヲ優レリトス原來再議ニ付セラル、ハ概シテ下

付原案ノ加除等ニ付キ内閣委員カ辨明ノ明晰ナラサルニ原ツクヲ以テ本案ノ再議ニ付セラレタルモ亦當ニ然ルヘシト思惟セシニ今回ハ全ク其然ラサルヲ發見セリ何トナレハ當初本官ハ以爲ラク内閣ニ於テ戒嚴令中其明文ヲ掲載セサリシハ必スヤ特ニ注意ノアルアツテ然ルナルヘシト何ソ圖ラン内閣ハ却テ本院修正委員ノ說ヲ取テ本案ヲ下付セラレントハ即チ知ル本官ノ想像ハ全ク其正鵠ヲ失セシヲ抑モ現問題ノ發議者ハ戒嚴令修正委員ノ一人ニシテ嘗テ賠償云々ノ明文ヲ掲クル修正說ノ行ハレサルヨリ孤城落日ノ嘆ヲ爲セシニ内閣ハ全ク修正案ヲ執テ本案ヲ再議ニ付セラレタルハ本官ハ大ニ修正委員ノ爲メニ賀シ又本院ノ爲メニ祝スルナリ然レトモ本案ノ如ク但書トシテ第十四條第五項ニ掲クルハ不妥ナリ番外一

番モ此明文ハ本條第五項ニ限レリト云フニアラス而シテ十五番今回ノ修正說ハ前ニ述ル如ク頗ル穩當ナリト思考スルヲ以テ前會ニハ明文ヲ掲クルヲ不可トシタルニ係ラス更ニ之ヲ贊成ス

○二十番<sup>三浦安</sup>

十五番ノ修正說ニ同意ナリ「但賠償スルノ限ニアラ

ス」トノ文字ハ第二百二十五號修正議案ニハ之アリシカトモ既ニ該一句ハ刪除ニ決シテ上奏ナリタリ而シテ本案ハ其精神ハ該案ニ同シキモ今般新タニ下付ナリタル者ナレハ内閣ニ於テ本院ノ修正案ヲ取ラレタリト謂フモ實ハ一面目ヲ改メタル新法案ト看做サルヘカラス茲ニ十五番ノ「賠償」ノ字ヲ要償ト爲シ第五項ノ但書トセシテ本條ノ但書ト爲ス修正ハ頗ル妥當ナルヲ覺フ何トナレハ本官等前會ニモ陳述セシ如ク官ヨリ兵ヲ出シテ戰ヲ爲スハ國民保

護ノ爲メニ外ナラサレハ之ニ依テ受ケタル損害ニ對シテ要償ヲ爲スヘカラサルハ國民ノ義務ト云フヘシ想フニ内閣ニ於テ前議案中「賠償云々」ノ明文ヲ掲ケサリシハ之カ爲メニシテ之ヲ明記スルヤ蓋シ其精神ヲシテ却テ薄弱ナラシムルノ恐レアルヲ以テナリ然ルニ前會全部付託修正委員ニシテ之ヲ追加セシハ只體面上ニ過キサルナリ是レ本官等之ヲ掲クルヲ不可トシタル所以ナリシカ現問題ノ如ク「要償スルコトヲ得ス」ト爲シテ之ヲ掲クル時ハ敢テ不可ナシ要償アリテ賠償起ル者ナレハ要償云々即チ人民ヨリ申請スヘキ者ニ非スト示スニ在ルヲ以テナリ

## ○三十六番

津田眞道

現問題ハ文字ニ於テハ差異アレトモ精神ハ前會十五番カ提出ノ修正説ト毫モ差異ナシ本官ハ前會十五番ヲ賛成シテ

苦戰甚タ勉メタルモ遂ニ其効用アラサリキ今ヤ内閣ヨリ本案ノ再議ニ付セラレタル時ニ當リ十五番ハ又前修正説ノ精神ト同シク賠償云々ノ諸項ニ渉ル修正ヲ提出セラレタルニ前會ニ在テハ勁敵タリシ諸君モ過ヲ改メタル乎今會ニ在テハ翻然旗ヲ伏セ十五番ノ修正説ヲ賛成セラル、ヲ以テ本日ハ本官等干戈ヲ交エスシテ勝ツヘキノ地位ニ達シタリト思考ス嗚呼昨日ノ非ハ今日ノ是ト變ス時勢ノ變遷モ斯ノ如ク其レ甚タシキ乎眞ニ感歎ニ堪エサルナリ回顧セハ今ヲ距ル三十年以前彼ノ水師提督「ルリ」ノ初メテ我相州浦賀港ニ來リシ時ハ我日本全國ノ志士ハ慨シテ攘夷論ヲ説カサル者ナカリシニ今日ニ在テハ甚シキハ東洋社會黨ヲ團結スル者アルニ至レリ又近日朝鮮國ニ於テ彼暴徒等我公使館ヲ襲撃セシコトノ如キ

恰モ我二十年以前ノ事體ニ彷彿セリ然レトモ彼モ亦幾許ノ星霜ヲ  
經スシテ我國今日ノ如キ景況ニ赴キ而シテ我國ハ歐米各國ト比肩  
ノ地位ニ達スルモ亦數年ヲ出サルヘシ時勢變遷ノ効用モ亦大ナル  
哉想テ此ニ至レハ爲メニ贅言ヲ吐露セサルヲ得サルナリ

○議長 發議盡キタリト認ルヲ以テ決ヲ取ン十五番ノ修正說ニ同意  
者ハ起立スヘシ

起立者十八人

○議長 多數ナルヲ以テ十五番ノ修正說ニ決シ此ニ第二讀會ヲ畢リ  
引續キ第三讀會ヲ開ク

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

戒嚴令第十四條本文ノ末

但其執行ヨリ生スル損害ハ要償スルコトヲ得ス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立スヘシ  
起立者十九人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決シ此ニ第三讀會ヲ畢ル修正ノ理由  
ヲ具シ例ニ遵ヒ上奏スヘシ散會セヨ

午前第九時四十分閉場

元老院會議筆記明治十五年九月四日

○第三百四十二號議案 戰時ヲ定ムルノ儀 檢視會

○第三百四十三號議案 空知集治監司獄官吏ノ裁判權付與ノ儀 檢視會

○第三百四十四號議案 徵發令 檢視會

議長 佐野常民

出席議員

一番 河瀬 眞孝

三番 柴原 和

八番 稅所 篤

十二番 大久保一翁

十三番 本田 親雄

- 十五番 伊丹 重賢
- 十六番 神田 孝平
- 十七番 楠本 正隆
- 十八番 東久世通禧
- 十九番 鍋島 直彬
- 二十番 三浦 安
- 廿一番 鍋島 直大
- 廿二番 河田 景與
- 廿三番 岩下 方平
- 廿六番 榎村 正直
- 廿七番 伊集院兼寛

- 廿八番 四條 隆謨
- 廿九番 關口 隆吉
- 三十番 楠田 英世
- 卅一番 西 周
- 卅二番 野村 素介
- 卅三番 林 友幸
- 卅四番 長岡 護美
- 卅五番 渡邊 洪基
- 卅六番 津田 眞道

午前第九時三十分開場

○議長 第三百四十二號第三百四十三號及第三百四十四號議案ノ檢

視會ヲ開ク

書記官

森山茂

左ノ案ヲ朗讀ス

第三拾七號

凡ソ法律規則中戰時ト稱スルハ外患又ハ内亂アルニ際シ布告ヲ以テ定ムルモノトス

右奉 勅旨布告候事

太政大臣三條實美

陸軍卿大山巖代理

明治十五年八月五日

參事院議長山縣有朋

海軍卿川村純義

○議長

發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立スヘシ

全員起立

○議長

全會一致ナルニヨリ次案ニ移ルヘシ

書記官

森山茂

左ノ案ヲ朗讀ス

第四拾壹號

空知集治監ノ囚人假出獄免幽閉ノ者トモ罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官

吏ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜取計フヘシ

但重罪ハ函館重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス

右奉 勅旨布告候事

太政大臣三條實美

司法卿大木喬任

明治十五年八月十二日

○議長

發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立スヘシ



全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ第三百四十四號議案ニ移ル但本案ハ長文ナルカ故布告文ノ他朗讀ヲ省クヘシ爰ニ一應各位ニ宣告スヘキコトアリ抑此布告タル畢竟政府ニ於テ人民ヲ保護スルノ點ヨリ止ムコトヲ得ス發令セシモノニシテ人民ニ於テモ亦當ニ國家ニ盡スヘキ義務ノ法律ナレハ固ヨリ本院ノ議定ニ付セラレ充分ノ討議ヲ盡スヘキモノナルニ依リ内閣ニ於テモ戒嚴令ニ引續キ議定ニ付セラレヘキ意見ナリシニ偶マ朝鮮ノ事變起リ花房公使ノ再航ニ際シタルヲ以テ急ニ之カ調査ニ從事シ八月十日ニ至リテ漸ク案ヲ成セリ然ルニ當時彼國ニ在テ若シ我公使ノ内地ニ入ルヲ拒ム等ノコトアラシニハ直チニ開戦ニ至ルモ圖ラレス而シテ開戦後本布告ヲ發

スル如キハ不體裁ナルニ由テ俄ニ發令セサルヲ得サルニ至レリ若シ其レ幸ニシテ今日ノ如キ好結果ヲ得ルヲ豫知シタランニハ斯ノ如ク急速ノ發令ヲ要セサリシハ勿論ナリシ但近來ハ内閣並ニ參事院議長ニ於テモ諸布告ハ必ス議定ニ付セラレヘキ意見ナレトモ該案ノ如キハ之ヲ議定ニ付スルトキハ如何程至急ヲ要スルモ二三ノ日子ヲ經過セサルヲ得スシテ爲メニ發令ノ時機ヲ失スルノ恐レアルヲ以テ萬止ムヲ得ス布告ノ後檢視ニ付セラレタリトハ參事院議長ヨリ特ニ本官ニ告ケタル所ナリ各位之ヲ領シテ本布告ノ利害得失ニ關シ意見アラハ本案ノ檢視ヲ經過シタルノ後例ニ依リテ別ニ意見書ヲ提出スヘシ因テ豫メ之ヲ辨ス

書記官

森山茂

左ノ案ヲ朗讀ス

第四拾三號

徵發令別冊ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

太政大臣三條實美

内務卿 山田顯義

陸軍卿 大山 巖

海軍卿 川村純義

農商務卿西郷從道代理

内務卿 山田顯義

司法卿 大木喬任

左案ハ議場ニ於テ朗讀ナカリシモノナレトモ閱覽ノ便ニ供セ

シカ爲メ附録ス

徵發令

第一條 徵發令ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍或ハ海軍ノ全部又ハ

一部ヲ動カスニ方リ其所要ノ軍需ヲ地方ノ人民ニ賦課シテ徵發  
スルノ法トス

但平時ト雖モ演習及ヒ行軍ノ際ハ本條ニ准ス

第二條 徵發ハ陸軍若クハ海軍官憲ノ徵發書ヲ以テ之ヲ行フ

第三條 左ニ記列スル官憲ハ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

一 陸軍卿海軍卿鎮臺司令官及ヒ鎮守府長官

二 陸軍ニ於テハ特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長若ク

三ハ演習及ヒ行軍ノ軍隊長

三 海軍ニ於テハ特命司令官艦隊司令長官艦隊司令官分遣艦長  
若クハ操練及ヒ航海ノ艦隊司令官又ハ艦長

第四條 徵發ス可キモノノ種類ニ依リ徵發區會社モ之ヲ定ムルコ  
ニ准ス

ト左ノ如シ

一 第十二條第一項ハ 府縣

二 第十二條第二項及ヒ第三項ハ 郡區

三 第十二條第四項以下各項及ヒ第十三條各項ハ 町村

四 船舶會社所有ノ船舶及ヒ鐵道會社所有ノ瀛車ハ 會社

第五條 徵發ス可キモノハ徵發區内ニ現在スルモノニ限ル

第六條 徵發書ハ徵發區ニ從ヒ府知事縣令郡區長戸長若クハ停車  
場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シ

第七條 徵發書ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長  
船舶會社ノ店長ハ時期ヲ誤ルコトナク其供給ヲ完全セシムルノ  
責アルモノトス

第八條 各徵發區ニ於テハ臨時徵發ニ應ス可キ便宜ノ方法ヲ豫定  
ス可キモノトス

第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ時期ニ違フコトナク之ヲ供給  
スルノ義務アルモノトス若シ其時期ニ違フトキハ府知事縣令郡  
區長戸長他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メニ生シタル費用ハ本人ヲシ  
テ之ヲ辨償セシム但會社ニ係ルモノハ陸海軍官憲直ニ其處分ヲ  
爲ス可シ

第十條 徵發ヲ課セラレタルモノノ商用其他ノ事故ヲ以テ供給ヲ拒

ミ又ハ供給ス可キモノヲ藏匿シタルトキハ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第十一條 供給ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ其受領證票ヲ府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ交付スヘシ

第十二條 徵發ス可キモノ左ノ如シ

一 米麥秣芻鹽味噌醬油漬物梅干及ヒ薪炭

二 乘馬馱馬駕馬車輛其他運搬ニ供スル獸類及ヒ器具

三 人夫

四 宿舍厩圍及ヒ倉庫

五 飲水石炭

六 船舶

七 鐵道瀛車

八 演習ニ要スル地所

九 演習ニ要スル材料器具

第十三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ掲クルモノ、外徵發ス可キモノ左ノ如シ但平時ノ演習及ヒ行軍ニハ徵發スルコトヲ得ス

一 造船所工作所及ヒ軍事ノ工作ニ要スル材料器具

二 職工礦夫洗濯人ノ類

三 被服裝具艸鞋兵器彈藥船具寢具藥劑治療器械及ヒ繩帶具

四 水車搗春ノ類

五 病院

第十四條 第十二條第二項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

- 一 皇族所用ノ車馬
- 二 外國公使館并ニ領事館ニ屬スル車馬
- 三 乘馬本分タル職務ニ要スル馬匹
- 四 郵便用ノ車馬
- 五 公認セラレタル種牛種馬

第十五條 第十二條第四項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

- 一 公務ニ屬スル廳署
- 二 皇族ノ邸宅
- 三 外國公使館領事館及ヒ其所屬館
- 四 鐵道電信郵便用ノ建造物

五 陸海軍將校并ニ同等官現住ノ家屋

六 博物館書籍館

七 病院盲啞院棄兒院

八 學校但臨戰合圍地境内ニ在リテハ此限ニ在ラス

九 製造場内機械室

第十六條 第十二條第二項ニ掲クルモノ、使用ハ其原用ヲ轉シテ他用ニ供スルヲ許サス但戰時若クハ事變ニ際シテハ此限ニ在ラス

第十七條 第十二條第二項ニ掲クルモノハ其差出場所ヨリ六里未滿ノ地ニ於テ使用スルヲ例トシ一日ノ使用ハ六里ニ越ユルコトヲ得ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ六里以外ノ地ニ使用スルコト

トヲ得

第十八條 第十二條第四項ニ掲クルモノハ合圍地境内ヲ除クノ外  
居住者ノ起臥及ヒ營業ニ必要ナル場所ヲ徵用スルコトヲ得ス但  
營業ニ必要ナルモ旅店等ハ此限ニ在ラス

第十九條 宿舍ノ廣狹ハ其地家屋ノ數ト隊伍ノ編制トニ從ヒ一定  
シ難シ故ニ臨時適宜ニ之ヲ定ム

第二十條 第十二條第四項ニ掲クルモノハ陸軍若クハ海軍ノ都合  
ニ依リ特ニ其場所ヲ指定スルコトアル可シ

第二十一條 宿舍ヲ定メタルノ後ハ區町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移  
セシムルコトヲ許サス厩園倉庫亦同シ

第二十二條 宿舍厩園ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ併セテ人馬ノ

食飼ヲ供給ス可シ但駐軍三日以上ニ至ルトキハ第四日ヨリ食飼  
ハ陸軍若クハ海軍ノ自辨トス

第二十三條 第十二條第六項ノ徵發ニ係リ其乘載人馬ノ食飼ヲ要  
スルモノハ併セテ供給セシム

第二十四條 第十二條第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノハ戰時若ク  
ハ事變ニ際シ借切トシテ之ヲ徵用スルコトアル可シ

第二十五條 第十二條第二項第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノハ其  
操業者ヲ併セテ徵用スルヲ例トス但時宜ニ依リ各個ニ分別シテ  
徵用スルコトヲ得

第二十六條 第十二條第六項ニ掲クルモノヲ操業者ト各個ニ分別  
シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル但船橋及ヒ艇船ニ充

ツルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條 第十二條第七項ニ屬スル瀛車其屬具鐵道建築所用ノ材料器具及ヒ操業者ヲ各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル

第二十八條 第十三條第五項ニ掲クルモノハ陸海軍病院ノ補助トシテ徵用スルヲ例トス但合圍地境內ニ在リテハ全ク明渡サシムルコトヲ得

第二十九條 徵發ニ係ルモノハ第三十一條乃至第五十條ニ定ムル所ノ方法ニ從ヒ賠償ス

第三十條 徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務トシ其輸送賃ヲ支辨セス

第三十一條 賠償ハ平時ト戰時トヲ論セス其時々之ヲ支辨スルモノトス但戰時若クハ事變ニ際シ紛擾ノ爲メ延滞シテ三ヶ月ヲ越

ユルトキハ年六分ノ割ヲ以テ其利子ヲ付ス

第三十二條 賠償ハ徵發區毎ニ一括シテ府知事縣令郡區長戸長停車場長船舶會社ノ店長ヨリ之ヲ請求ス可シ

第三十三條 徵發物件ノ其使用ノ爲メニ毀損シタルモノハ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

其毀損ハ持主若クハ操業者ヨリ速ニ其地ニ在ル陸海軍官憲若クハ區戸長ニ届出可シ其届出ハ徵用濟引渡ノ後左ノ期限ヲ越ユ可カラス若シ其期限ヲ越ヘ又ハ期限内持主若クハ操業者ニ於テ使

用セシトキハ無効トス

一 西洋形船舶 七日間

二 地所 評價委員ノ告示スル時日間

三 其他ノ物件 一日間

第三十四條 第十二條第一項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地市場ノ前三ケ年間ノ平均價ヲ取り之ヲ定ム其平均價ノ取り難キモノハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十五條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ賃價トス但物件ト操業者トヲ各個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ雇賃及ヒ借賃ニ准シテ賠償ス

第三十六條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ルモノヲ宿泊セシメ連日

使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキハ第三十二條ノ例ニ拘ハラズ賃價ノ半額ヲ前給シ宿泊食飼ヲ官給ス但此場合ニ於テハ賃價ノ四分ノ一ヲ減ス

第三十七條 第十二條第二項及ヒ第六項ニ掲クルモノヲ買上クルトキハ勿論其他使用ノ都合ニ依リ價格ノ豫定ヲ要スルトキハ其金額ヲ定メ置ク可シ其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十八條 第十二條第三項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第三十九條 第十二條第四項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム



第四十條 第十二條第五項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地平常ノ代價トス

第四十一條 第十二條第六項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書

アルモノ、外左ノ區別ニ從フ

一 出船ノ定時アリテ定路ヲ航スルモノハ平常ノ定賃

二 定路ヲ航スルモ特ニ出船時日ヲ命シタルトキハ其乘載量五

分ノ三ニ滿チタル以上ハ前項ノ例ニ准ス若シ之ニ滿タサル

三 出船及ヒ航路ノ定メナクシテ定賃ナキモノ又ハ運送ヲ以テ

營業トセサルモノ等其賠償金額ニ就キ供給者ト熟議調和セ

サルトキハ評價委員ノ評定額

三十五分ノ三ニ値ル平常ノ定賃

第四十二條 第二十四條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者平常ノ

給料航泊實費及ヒ船舶ノ損料トス其損料ハ一ヶ月ニ各船舶買入

代價六十四分ノ一トス

第四十三條 第二十六條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平

常ノ給料船舶ニハ第四十二條ノ損料トス但船橋及ヒ艇船ニ充テ

タルモノ、賠償金額ハ第四十一條第三項ニ准ス

第四十四條 第十二條第七項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書

アルモノ、外平常ノ定賃トス

第四十五條 第二十七條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平

常ノ給料物件ニハ其地平常ノ代價若クハ損料トス其金額ニ就キ

供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十六條 第十二條第八項ノ徵發ニ係ルモノハ其植物ニ損害ヲ加ヘ又ハ地形ヲ變更シタルトキニ限り賠償ス其金額ハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十七條 第十二條第九項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ相當ノ損料ヲ賠償ス

第四十八條 第十三條第一項第三項及ヒ第四項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ損料ヲ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十九條 第十三條第二項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第五十條 第十三條第五項ノ徵發ニ係ルモノハ通常患者ノ例ニ從

フテ賠償ス全ク明渡サシムルトキハ第三十九條ノ例ニ准ス

第五十一條 徵發ヲ拒ミ或ハ規避シ或ハ漫リニ使役ヲ離レタルモノ及ヒ之ヲ教唆誘導シタルモノハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十二條 徵發ノ命令ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戸長停車場長船舶會社ノ店長其處置ヲ爲サ、ルモノハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其懈怠ニ出ルモノハ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條 徵發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲妄ニ徵發書ヲ出シ又ハ其權ヲ有セサル官憲徵發書ヲ出シタルトキハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

○議長、發議ナキヲ以テ決ヲ取シ本案ニ同意者ハ起立スヘシ

ハ起立者廿三人、官憲附議書マ出シテハ一筆以上四筆以

○議長、多數ナルニヨリ三案トモニ異議ナク檢視ヲ經過セシ旨ヲ具

シ例ニ遵ヒ上奏セン且明後六日例刻第三百四十五號第三百四十六

號及第三百四十八號議案ノ檢視會ヲ開クヘシ本日ハ散會セン出

午前第九時四十五分閉場

本會畢テ議官席次ノ番號ヲ抽籤ス

議案三則以上三十圓以下ノ罰金ヲ罰則ス

又ハ一筆以上一筆以下ノ罰金ヲ罰則ス

第五十一號、罰則マ取テハ一筆以上一筆以下ノ罰金ヲ罰則ス

又ハ一筆以上一筆以下ノ罰金ヲ罰則ス

元老院會議筆記明治十五年九月六日

○第三百四拾五號議案 石油取締規則施行日限改定ノ儀 檢視會

○第三百四拾六號議案 米商會所并株式取引所營業停止又ハ禁止方ノ件 檢視會

○第三百四拾八號議案 傳染病豫防規則第八條檢視會中當分施行セサルノ件 檢視會

議長 佐野 常民

出席議官

- 一番 神田 孝平
- 二番 長岡 護美
- 三番 岩下 方平
- 四番 鍋島 直大
- 五番 林 友幸
- 六番

- 七番 稅所 篤
- 八番 伊集院兼寬
- 九番 渡邊 洪基
- 十番 柴原 和
- 十一番 津田 眞道
- 十二番 四條 隆訶
- 十三番 鍋島 直彬
- 十四番 河瀬 眞孝
- 十五番 伊丹 重賢
- 十六番 大久保一翁
- 十九番 楠本 正隆

- 廿一番 箕作 麟祥
- 廿二番 榎村 正直
- 廿八番 西 周
- 三十番 野村 素介
- 卅二番 河田 景與
- 卅四番 三浦 安
- 卅五番 本田 親雄
- 卅六番 東久世通禧

午前第九時三十分開場

○議長 第三百四拾五號第三百四拾六號及第三百四拾八號議案ノ檢  
 視會ヲ開ク

書記官 森山茂

左ノ案ヲ朗讀ス

第四十四號

明治十四年<sup>九月</sup>第五十號布告石油取締規則施行日限ノ儀更ニ明治十

六年七月一日ト改定ス

右奉 勅旨布告候事

太政大臣三條實美

明治十五年八月十六日

内務卿 山田顯義

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立スヘシ

全員起立

○議長 全會一致ナルニヨリ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂

左ノ案ヲ朗讀ス

第四十六號

米商會所及ヒ株式取引所ノ賣買ニ不正惡弊アルカ又ハ賣買取引上  
ノ景況穩當ナラサル爲メ公共ニ妨害ヲ及ホスト認ムルトキハ農商  
務卿ハ其會所及ヒ取引所又ハ仲買人ノ營業ノ一部又ハ全部ヲ停止  
若クハ禁止シ又ハ役員ヲ退罷セシムルコトアルヘシ

但本年第貳拾六號布告米商會所條例追加第二十條ハ削除ス

右奉 勅旨布告候事

太政大臣三條實美

明治十五年八月十九日

農商務卿西郷從道代理

内務卿 山田顯義

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立スヘシ

○ 全員起立

○議長 全會一致ナルニヨリ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第四拾七號

明治十三年<sup>七</sup>月第三拾四號布告傳染病豫防規則第八條中病名票貼付ノ儀當分之ヲ施行セス  
右奉 勅旨布告候事

太政大臣三條實美

明治十五年八月二十六日

内務卿 山田顯義

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立スヘシ  
起立者廿二人

○議長 多數ナルニヨリ三案トモニ異議ナク檢視ヲ經過セシ旨ヲ具シ例ニ遵ヒ上奏セン

右畢テ第三百廿一號議案第二讀會ノ開議アリ其筆記ハ別冊ニ載ス

元老院會議筆記明治十五年九月八日

○第三百四十九號議案 傳染病豫防規則中 檢視會

議長 佐野常民

出席議員

- |    |       |
|----|-------|
| 一番 | 神田 孝平 |
| 三番 | 長岡 護美 |
| 四番 | 岩下 方平 |
| 五番 | 鍋島 直大 |
| 六番 | 林 友幸  |
| 八番 | 伊集院兼寛 |
| 九番 | 渡邊 洪基 |

- 十番 柴原 和
- 十一番 津田 真道
- 十二番 四條 隆誥
- 十三番 鍋島 直彬
- 十五番 伊丹 重賢
- 十六番 大久保一翁
- 十九番 楠本 正隆
- 廿一番 箕作 麟祥
- 廿二番 榎村 正直
- 廿五番 津田 出
- 廿八番 西 周

- 廿九番 渡邊 清
- 三十番 野村 素介
- 卅四番 三浦 安
- 卅六番 東久世通禧

午前第九時三十五分開場

○議長 第三百四十九號議案檢視會ヲ開ク

書記官 森山 茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第四拾八號

明治十三年<sup>七</sup>月第三拾四號布告傳染病豫防規則中左ノ通追加改正ス

第十四條へ左ノ一項追加

此場合ニ於テハ醫師タル者吐瀉ノ二症ヲ兼備フル病ヲ診斷ス



ルトキハ總テ檢疫委員ニ届出ヘシ

但本項施行ノ終始ハ地方廳ヨリ之ヲ管内ニ告示シ内務省ニ  
第十申報スヘシ

第二十一條左ノ通改正

痘瘡病者アルトキハ第十條第十一條及第二十條ヲ適用シ患者  
ニ未痘者ヲ接近セシムヘカラス其流行ノ際ニハ第十二條ヲ適  
用スヘシ

右奉 勅旨布告候事

明治十五年九月一日

太政大臣三條實美  
内務卿 山田顯義

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者二十人

○議長 多數ナルニヨリ本案異議ナク檢視ヲ經過セシ旨ヲ具シ例ニ  
遵ヒ上奏スヘシ散會セヨ

午前第九時四十分閉場

元老院會議筆記明治十五年八月二十五日

禁傍聽

○第三百四十七號議案 賣藥規則中追加之件 賣藥規則中追加之件 第一第二及第三讀會

議長代理  
東久世通禧

出席議官

- |     |       |
|-----|-------|
| 三番  | 柴原和   |
| 四番  | 渡邊驥   |
| 十一番 | 津田出   |
| 十二番 | 大久保一翁 |
| 十三番 | 本田親雄  |
| 十五番 | 伊丹重賢  |

- 十九番 鍋島 直彬
- 二十番 三浦 安
- 廿二番 河田 景與
- 廿三番 岩下 方平
- 廿七番 伊集院兼寛
- 廿八番 四條 隆謨
- 廿九番 關口 隆吉
- 三十番 楠田 英世
- 卅一番 西 周
- 卅三番 林 友幸
- 卅五番 渡邊 洪基

卅六番 津田 眞道

内閣委員 番外一番 参事院議官 山尾 庸三  
番外二番 参事院議官補 白根 專一

午前第九時四十分開場

○議長 副議長ハ病痾ニ依リ出院セサルヲ以テ本官代理ヲ爲シ第三  
 百四十七號議案ノ第一讀會ヲ開ク書記官朗讀ノ後例ニ循ヒ發議ス  
 ヘシ

書記官 森山 茂 左ノ案ヲ朗讀ス

布告案

明治十年一月第七號布告賣藥規則中左ノ通追加シ來ル 月 日ヨリ  
 施行ス

第二條へ但書追加

但免許ヲ受ケタル者ニケ所以上ニ於テ之ヲ調製スル時ハ其箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

第十六條中右鑑札料云々ノ項へ但書追加

但第二條但書ニ依リ免許鑑札ヲ受クル者ハ其箇所毎ニ本文ノ税金并鑑札料ヲ納ムヘシ

右奉 勅旨布告候事

布告案

賣藥印紙稅規則左ノ通相定來ル 月 日ヨリ施行ス

賣藥印紙稅規則

第一條 賣藥ニハ必ス定價ヲ附記シ其定價ニ從ヒ製藥者ニ於テ左ノ割合相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

印紙稅ノ割合

- |          |      |
|----------|------|
| 一 定價壹錢迄  | 印稅壹厘 |
| 一 全 貳錢迄  | 全 貳厘 |
| 一 全 三錢迄  | 全 三厘 |
| 一 全 五錢迄  | 全 五厘 |
| 一 全 拾錢迄  | 全 壹錢 |
| 一 全 拾五錢迄 | 全 三錢 |
| 一 全 貳拾錢迄 | 全 四錢 |

以上總テ五錢毎ニ壹錢ヲ増加ス

第二條 印紙種目ハ左ノ如シ

壹厘	何色
貳厘	何色
三厘	何色
五厘	何色
壹錢	何色
三錢	何色
四錢	何色
五錢	何色
拾錢	何色

第三條 印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ製藥者ニ於テ之ヲ

消印スヘシ

但印紙面ノ中心ヨリ他所ヘ掛ケ消印スヘシ

第四條 賣藥印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限り賣捌クモノトス  
第五條 製藥者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 請賣者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 貼用印紙ニ消印セサル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌ク者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス其情ヲ知リテ之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス

右奉 勅旨布告候事

○外二番 白根 專一 此兩布告案ノ頒布ヲ要スル理由ヲ説明セン其第一案

ハ從來賣藥者ハ一地方ニ於テ營業ノ免許ヲ得ハ何ノ地方ニ於テ幾多ノ製藥所ヲ有スルモ之カ爲メ別ニ納稅ノ義務ヲ負フコトナシ是レ事理ニ適セサルノミナラス管理上亦不可ナル所アリ而シテ本案ノ如クセハ能ク是等ノ障礙ヲ除キ且幾許カ國庫ノ收入ヲ増スヘシ乃チ本案ノ要用ナル所以ナリ其第二案ハ之ヲ略言セハ此ニ取テ我政

府ノ經濟ヲ資ケ以テ他ノ有用ナル費途ニ充ントス其何ニ對シテ支出スルヤ未タ豫定セサレトモ要スルニ賣藥ニ關係ヲ有スル者ニシテ例ヘハ流行病費衛生費等ニ於ケル是レナリ又現時我政府經濟ノ實況ハ本員ノ喋々ヲ俟タス各位ノ熟知スル所ナルヘケレハ敢テ之ヲ辨セサルナリ且告ク本案第二條中壹厘貳厘等ノ下實ハ判然其色名ヲ示スヘキナレトモ要急ノ法案ニシテ其調査ノ暇アラサルカ爲メ此ノ如ク記載シタリ故ニ之カ布告ノ日ニ至レハ勿論之ヲ明記スルノ意ナレハ各位之ヲ領シテ議定アラシコトヲ希望ス

○二十番 三浦 安 本官ハ賣藥規則中追加ノ件ニ對シテハ全ク同意ナリ

而シテ印紙稅ノ議案ニ就テハ之ヲ設クルハ同意ナレトモ一應爰ニ內閣委員ニ辨明ヲ煩ハサン夫レ課稅ノ甲乙權衡ヲ保持セサルヘカ

ラサルハ論ヲ俟タス而シテ賣藥ハ其實効用ナキカ如クナレトモ邊  
郷僻地等ニ在テハ幾許カ益ナキニ非ス是レ蓋シ其販賣ヲ許可スル  
所以ナリ又煙草ノ如キハ眞ニ無用ノ長物ナルモ亦其販賣ヲ禁セス  
而シテ賣藥ハ此印紙稅ヲ加フレハ實ニ一割以上ノ課稅トナル良シ  
是レ制禁ノ心ヨリ出タリトスルモ苟モ有用ノ物トシテ其販賣ヲ許  
可シタル以上ハ衛生上ノ一用品ト云ハサルヲ得ス然ルニ此稅ヲ以  
テ彼無用ノ長物タル煙草印紙稅ト比較セハ其權衡相當ラサルナリ  
乃チ本案ニ可決シタル以上ハ煙草稅ノ如キハ從テ増加スヘシトハ  
考フレトモ若シ然ラスンハ本官ハ大ニ意見ヲ殊ニスルヲ以テ之ヲ  
辨セサルヲ得ス内閣ノ意果シテ之ヲ増加スルニ在ル乎

○外番二番白根專一

目下二十番ノ疑問ニ對シテハ確答スル能ハサレトモ

聊之ヲ辨セン煙草稅ノ増加ハ恰モ目下二十番ノ說ノ如シ然レトモ  
之カ増稅ハ一ニ賣藥ト權衡ヲ失スルカ爲メノミナラス實ハ本年ノ  
歲入額ハ昨年ニ比スレハ百七十萬圓餘ヲ減少シタリ故ニ萬一事ア  
レハ國庫ニ不足ヲ生スヘキニ依リ主務省ニ於テハ其稅ヲ二割ト改  
正スルノ意ヲ以テ今之カ調査中ナレハ本員ハ他日蓋シ此ノ如ク改  
正ナルヘキヲ信スルナリ

○三十六番津田眞道

本官等増稅ハ素ヨリ好マサレトモ目下ノ景況ハ番  
外二番ノ辨明ノ如クナルヘケレハ賣藥ニ此許ノ稅ヲ課スルハ障碍  
ナシト信スルナリ或ハ賣藥ハ有用ナラスト謂フ者アルモ知ルヘカ  
ラサレトモ本官ハ以爲ラク是レ大ニ有用ノ者ニシテ目下我三千五  
百萬人中之ヲ必用トセサル者ハ恐ラクハ其十分一即チ三百五十萬

人ニ至ラサルヘシト然ラハ則チ此大數人民ハ皆盡ク身命ヲ以テ賣藥ニ依頼スル者ト云ハサルヘカラス近來ハ我文部大學校ニ於テ卒業シタル醫學士アリ又外國ノ大學校ニ於テ卒業シタル醫學士アリ又外國ノ大學校ニ於テ卒業シタル醫學士等アリテ良醫ニ乏シカラサルモ之カ治療ヲ受ル者ハ寥寥長星ノ如ク他ハ皆寶丹ヲカトシ精錡水ヲ頼ムノ徒ノミ迺チ我日本ハ今日賣藥世界ト云フモ猶ヲ可ナリ然ラハ之ニ課稅スルハ支障アルニ似タレトモ俗ニ所謂藥リ九層倍ニテ大イナル利潤ヲ占ムル者ナリ既ニ寶丹並千金丹ノ如キ元價ハ僅ニ數錢ノモノニシテ其利ヲ博スル極メテ夥ク支那及朝鮮地方ニモ輸出シ其販賣額モ亦少ナカラスト云フ故ニ一割以上ノ課稅モ決シテ過當ニ非ス猶ホ且其營業者ニ在テ利潤餘リアルヤ疑ナシ購買者ニ在テモ之カ爲メ舊ニ比スレハ之ヲ得ル

ニ貳三厘若クハ貳三錢ノ多額ヲ要スルモ之カ爲メ敢テ影響ヲ生セサルヤ明カナリ何トナレハ一タヒ良醫ノ診察ヲ乞ントセハ之ニ報ユルニ少ナクモ五拾錢多キハ五圓乃至七圓ヲ以テセサルヘカラス而シテ此賣藥依頼者中ニ在テハ縱ヒ身代限ヲ爲スモ猶ホ之ヲ以テ此一診察料ニ充ルニ足ラサルモノアリ然ラハ到底賣藥ニ依頼スルノ他ナケレハナリ

○議長 發議盡キタルヲ以テ此ニ第一讀會ヲ畢ル

○外二番白根 此稅金ハ本年度中ニ編入ヲ望ムヲ以テ本案ハ極メテ急施ヲ要スルニ依リ希クハ引續第二讀會ヲ開カレンコトヲ

○議長 番外二番ノ請求ニ應シテ引續キ第二讀會ヲ開クニ同意者ハ起立スヘシ



全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ引續キ第二讀會ヲ開ク

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

布告案

明治十年一月第七號布告賣藥規則中左ノ通追加シ來ル 月 日ヨリ

施行ス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立スヘシ

全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第二條へ但書追加

但免許ヲ受ケタル者ニケ所以上ニ於テ之ヲ調製スル時ハ其箇

所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本案ハ可決ト認メ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第十六條中右鑑札料云々ノ項へ但書追加

但第二條但書ニ依リ免許鑑札ヲ受クル者ハ其箇所毎ニ本文ノ

税金并鑑札料ヲ納ムヘシ

右奉 勅旨布告候事

○議長 發議ナキヲ以テ本案ハ可決ト認メ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

布告案

賣藥印紙稅規則左ノ通相定來ル 月 日ヨリ施行ス

○議長 發議ナキヲ以テ本案ハ可決ト認メ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

賣藥印紙稅規則

第一條 賣藥ニハ必ス定價ヲ附記シ其定價ニ從ヒ製藥者ニ於テ左ノ割合相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

印紙稅ノ割合

- 一 定價壹錢迄 印稅壹厘
- 一 全 貳錢迄 全 貳厘
- 一 全 三錢迄 全 三厘
- 一 全 五錢迄 全 五厘

- 一 全 拾錢迄 全 壹錢
  - 一 全 拾五錢迄 全 三錢
  - 一 全 貳拾錢迄 全 四錢
- 以上總テ五錢毎ニ壹錢ヲ増加ス

○十五番 伊丹重賢 本案ハ少シク修正スヘシ蓋シ製藥者ト云ハ、藥ヲ製

スル者ノ義ナルハ判然解スルヲ得ヘキモ本案ハ賣藥規則ニ連續シタル者ナレハ寧口彼ニ倣フテ營業者ト爲スヲ可トス何トナレハ其第六條ニ「賣藥營業者及ヒ請賣者共云々」其第七條ニ「賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サシメント欲スルトキハ云々行商鑑札ヲ願受ケ云々」トアリ即チ該規則中賣藥ハ營業者ト請賣者ト行商者トノ三種ノミニシテ製藥者ノ字面ナ

シ而シテ本案ノ所謂製藥者ハ則チ該規則ノ所謂營業者ナレハナリ  
 想フニ此ニ營業者トセスシテ特ニ製藥者トシタル者ハ請賣モ亦營  
 業ニ非サルナキヲ以テ營業者ト云ハ、彼此相混スルノ恐レアリト  
 爲スニ在ルヘケレトモ目下陳述スル如ク本案ハ賣藥規則ニ牽連シ  
 タル者ナレハ直チニ該規則中ノ稱呼ヲ用フルニ如カサルナリ幸ニ  
 シテ本修正ニ可決セハ第三第五兩條中ノ「製藥者」ナル文字モ亦之  
 ニ倣フテ修正スルハ固ヨリ論ヲ俟タサルナリ因テ此修正說ヲ提出  
 シ併セテ之ヲ辨ス

○三番柴原和 賛成ス營業者トセハ或ハ請賣者ト混スルニ似タレトモ  
 原來營業者ト請賣者ト行商者トノ三種ハ賣藥規則中ノ稱呼ナリ加  
 之本案第六條ニ「請賣者行商者云々」トアルヲ以テ營業者ト爲スモ

混淆ノ憂ナキヤ明カナリ

○議長 十五番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○三十五番渡邊洪基 賛成ス原來製藥者ト營業者トノ文字何レカ可ナル  
 ヲ擇フニ於テハ本官ハ製藥者ヲ採ルヘキモ賣藥規則中盡ク營業者  
 トアル以上ハ寧ロ之ヲ改メテ其稱呼ヲ一ニスヘシ其他本官ハ本案  
 ノ末項ニ對シテ聊修正ノ意見アルヲ以テ現問題ノ決議ヲ俟テ之ヲ  
 提出スヘシ因テ豫メ之ヲ辨ス

○三十六番津田眞道 十五番ノ動議ハ之ヲ要スルニ本案ハ賣藥規則ニ牽  
 連スル者ナレハ彼ニ依テ此ヲ修正スヘシト云フニ在リ是レ一理ナ  
 キニ非サレトモ本官ハ尙ホ原案ヲ可トス其理由ハ動議者モ稍自ラ  
 曉ル如ク請賣モ行商モ到底營業ニ外ナラサレハ營業者ノ文字ハ原

來妥當ナラサルナリ然ラハ賣藥規則中營業者トアルハ業已ニ過テ  
リト云フヘシ其レ然リ過チト知テ尙ホ且之ニ模倣スルハ本官ノ取  
ラサル所ナリ而シテ製藥者トハ則チ藥ヲ製スルノ義ナレハ營業者  
ト云フノ意義曠漠タルニ比スレハ頗ル優レルヲ覺フ故ニ本官ハ原  
案ヲ可トスルモ素ヨリ熱中抗辨スルノ意ニ非サルナリ

○議長 發議盡キタルヲ以テ決ヲ取ン十五番ノ修正說ニ同意者ハ起  
立スヘシ

起立者八人

○議長 少數ナルヲ以テ十五番ノ修正說ハ消滅ス

○三十五番 渡邊 洪基 課稅ノ件ニ關シテ修正說ヲ提出セン本官モ亦三十  
六番ノ意見ト同シク賣藥ハ我國ニ在テハ目下缺クヘカラサルノ一

大用品ニシテ窮郷僻地等ニ至テハ特ニ其必須ナルヲ信スルナリ故  
ニ假令ヒ其實無効無害ノ者多キニ居ルモ人々神經ノ感觸ニ依ルモ  
ノナル乎寶丹ヲ服シタルカ爲メ死ヲ起シタリ精錡水ヲ用ヒタルカ  
爲メ明ニ復シタリト信スルノ徒多キ今日ナレハ衛生局ニ於テモ特  
ニ注意シテ賣藥ハ務メテ有用無害ノ者ト爲シ以テ世ノ信用ヲ厚カ  
ラシムルヲ期スヘキナリ而シテ又之ニ依頼スル者ハ皆盡ク窮民ニ  
過キサレハ成ルヘク其價ノ廉ナルヲ望ムヘシ然ラハ之ニ稅ヲ課ス  
ル如キハ庶幾クハ之ナカラシムコトヲ欲スルモ國庫ノ都合ヲ顧ミレ  
ハ又之アラシコトヲ希ハサルヘカラス爰ニ此賣藥印紙稅ハ主務省  
ノ上申ニハ概シテ二割トアリシヲ内閣ニ於テ拾錢以下ヲ一割其以  
上ヲ舊ニ依テ二割トセシハ稍其當ヲ得タルカ如クナレトモ本官ハ